教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 日本語日本文学科　　資格： 准教授　　氏名： 平田　光彦

研究分野	研究内容のキーワード
人文学（芸術学、書道）、社会科学（教育学）	書道、仮名、書学書道史、書写書道教育、芸術教育、美学、美術史、感性評価
学位	**最終学歴**
博士（学校教育学）	兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.書道ゼミ・書道部で指導する学生の活動実績（2024）	2024年年度	・第50回記念 こうべ市民美術展　佳作（上位６名に続く賞） ・高砂市美術展2025　高砂市努力賞（上位から３人目） ・加東市公募美術展　奨励賞（上位４名に続く賞） ・西宮市展　若手賞 ・第2回 兵庫書写・書道フェスティバル 神戸新聞社賞１名 優秀賞２名 ・毎日書道展　入選４名 ・読売書法展　入選１名 ・第29回 全日本高校・大学生書道展　書道展賞２名 ・オープンキャンパス パフォーマンス ・文化祭　展示およびパフォーマンス （ほか、地域連携、学内貢献などは別に記載）
2.課外活動を通した学内貢献（2023年度） 武庫川女子大学 鳴松会（OG会）総会でのパフォーマンス発表（鳴松会からの依頼）	2023年5月	武庫川女子大学のOG会である鳴松会から依頼を受けて、総会において総合芸術パフォーマンスの作品を発表した。平田は企画立案・構成・演出を担当した。書道ゼミ・書道部の学生とダンス部とのコラボレーションによるパフォーマンスで、プロジェクションマッピングによる映像と音楽を用いた総合芸術作品。
3.地域連携・社会貢献（2023年～） NPO法人 兵庫県書写・書道教育協会でのボランティア活動	2023年4月～現在	「兵庫書写・書道フェスティバル（第１～３回）」に、書道ゼミや書道部の学生がボランティアで参加し、小中高大生の席書大会やワークショップ開催にスタッフとして尽力した。 2025年：ボランティアリーダー２名、スタッフ５名参加予定 2024年：ボランティアリーダー１名、スタッフ５名参加 2023年：ボランティアリーダー１名、スタッフ５名参加
4.書道ゼミ・書道部で指導する学生の活動実績（2023）	2023年度	・第70回 日本学書展 文部科学大臣賞（最高賞、1080人中の上位２名） 奈良県議会議長賞（最高賞に続く寄託賞） ・毎日書道展 U23新鋭賞 ・第1回 兵庫書写・書道フェスティバル 神戸新聞社賞１名 ・オープンキャンパス パフォーマンス ・文化祭　展示およびパフォーマンス （ほか、地域連携、学内貢献などは別に記載）
5.地域連携・社会貢献（2021年度） 河内長野市 成人式特集の題字揮毫（河内長野市広報広聴課からの依頼）	2022年1月	短大日本語文化学科・書道部の学生が、河内長野市広報広聴課発行「広報かわちながの 令和４年２月号」のフォト特集で、題字「成人のつどい」を毛筆で揮毫した。
6.書道ゼミ・書道部で指導する学生の活動実績（2022）	2022年度	・兵庫県広報コンクール 企画賞 （21年度に発表した、西宮市・スポーケン市 姉妹都市提携60周年記念パフォーマンスを含む映像に対して） ・第69回 日本学書展

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		奈良県知事賞（1027人中、最高賞２名に続く寄託賞） ・毎日書道展 U23新鋭賞 ・第27回 全日本高校・大学生書道展　書道展賞 ・文化祭　展示およびパフォーマンス （ほか、地域連携、学内貢献などは別に記載）
7.地域連携・社会貢献（2022年～） イベント招待におけるパフォーマンス・展示発表	2022年～現在	書道ゼミ・書道部の学生が次の地域・商業施設のイベント企画に招待され、パフォーマンスや展示発表をおこなった。 ・コロワ甲子園リニューアルイベント パフォーマンス（2023年度） ・阪急西宮ガーデンズ 新春パフォーマンス（2022年度） ・コロワ甲子園 新春書き初め展示（2022年度） ・鳴尾駅前イベント パフォーマンス（2022～現在
8.地域連携・社会貢献（2021年度） 西宮市・スポーケン市 姉妹都市提携60周年記念パフォーマンス（西宮市からの依頼、同市公式YouTube番組で作品発表）	2021年12月12日	西宮市広報課の依頼を受けて、西宮市とアメリカ・スポーケン市の姉妹都市提携60周年を記念する祝賀パフォーマンス作品を発表した。平田は企画立案・構成・演出を担当し、書道ゼミ有志・書道部１年生と箏曲部のコラボレーションによるパフォーマンスを構成した。2022年1月、西宮市広報番組「フロムにしのみや」および公式YouTubeにて配信され、スポーケン市に映像が送られた。
9.オンラインミーティングを活用した自主活動指導（学生幹事会の指導）	2021年4月～2023年3月	2021年度に学生委員となり、新型コロナウィルスが蔓延したことによって2020年度に途絶えていた幹事懇談会を中心とする幹事会活動を再開できるよう、Google MeetやZoomによるオンラインミーティングを積極的に活用して学生の自主活動を喚起した。以前に学生委員を勤めていた際に指導していた元幹事や各種委員会の学生たちと連携して２年越しの引き継ぎを支援し、活動の助言を行った。指導の結果、無事に学生たちで自主的に活動を進められる状態に襷を繋ぐことができた。
10.書道ゼミ・書道部で指導する学生の活動実績（2021）	2021年度	・第26回 全日本高校・大学生書道展　書道展賞 ・私学の書展　墨運堂賞 ＊感染症拡大における緊急事態宣言下 （ほか、地域連携、学内貢献などは別に記載）
11.課外活動を通した学内貢献（2020年～） 式典掲示物の揮毫（学生課からの依頼）	2020年2月～現在	武庫川女子大学の卒業式と入学式に際して、各キャンパスの正門等に掲げる「入学式」「卒業証書授与式」の看板を書道部学生が揮毫している。実物大の手本を揮毫した。
12.書道ゼミ・書道部で指導する学生の活動実績（2020）	2020年度	・私学の書展　呉竹賞 ・第25回 全日本高校・大学生書道展　書道展賞 ＊感染症拡大による緊急事態宣言下 （ほか、地域連携、学内貢献などは別に記載）
13.書道ゼミ・書道部で指導する学生の活動実績（2019）	2019年度	・産経国際書展　U23大賞（最高賞、上位１名） 新聞１面にインタビュー掲載 ・第24回 全日本高校・大学生書道展　書道展賞 ・私学の書展　みなせ筆本舗賞 ・文化祭　展示およびパフォーマンス
14.教員養成（高等学校書道）	2019年～	高等学校書道の教員を志望する書道ゼミ生、および日文学科生に、教員採用試験対策を課外で実施している。学びの成果として、2021年には、武庫川女子として初となる現役での高校書道教員採用試験合格者を輩出した。１次試験合格者も複数おり、卒業生達が兵庫県・大阪府で常勤・非常勤講師として書道教育に従事している。2023年からはMUKOJO+MOREとしても採用試験対策を実施。 ・京都府教員採用試験 高等学校 書道科で合格１名（2021年度）

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
15.授業実践や改善の取り組みに対する大学生からの評価	2009年4月～現在	2022年度に、武庫川女子大学での授業実践に対して、学長表彰「授業改善奨励賞」を受けた。学習者のforms回答を活用した授業方法の開発と確認、丁寧で分かりやすい個別指導と学習資料を中心とする取り組みで、授業評価アンケートにおいて学習者から高い評価を得てきた。 大学生による授業評価において、毎年、平均点を上回っている。例えば岩手大学における2012年、2013年の小学校国語B（履修者各53名、37名）では、授業満足度の評価値が平均１点（１が最高、学部平均は1.6点）であった。 また、奈良教育大学での集中講義における2016年仮名書法論（回答者16名）では、授業満足度の評価値が平均４点（４が最高、学部平均は3.31点）であった。
16.学外での展覧会の企画・開催	2009年度～現在	・武庫女書展 （武庫川女子大学 書道研究室 卒業制作展） 於：西宮市北口ギャラリー（2023,2024年度） 於：西宮市市民ギャラリー（2021,2022年度） ＊附属高校書道部との高大連携による合同卒業制作展 ・武庫川女子大学 書道研究室 卒業制作展 （第１・２回） 於：西宮市市民ギャラリー（2019～2022年度） ・武庫川女子大学 書道研究室 ３回生展 ―桜雲・さくらくも 1st― 於：西宮市市民ギャラリー（2024年度） ・第１～３回 武庫川女子大学 書道部 桜花書展 於：西宮市市民ギャラリー（2022年度～現在） ・書道部 単獨展 於：西宮市民ギャラリー（2020～2021年度） ・岩手大学書展（卒業制作展・在学生書道展） 於：アイーナギャラリー（2016,2017年度・卒制展） 於：盛岡市民文化ホール（2016年度・在学生展） 於：岩手県民会館（2009～20015年度）
17.書道コースで指導する学生の活動実績（2009～2018）	2009年～2018年度	岩手大学における代表的な指導実績 （2009～2017年は専任教員として、2018年は非常勤講師として指導） ・全日本高校・大学生書道展 大賞（仮名部門）４名（2015～2018年） 団体賞 全国７位（2016年） 団体賞 全国10位（2018年） ほか、全日本高校生大学生書道展賞および優秀賞 受賞多数（2009～2018年）
18.教育現場との連携を生かした取り組み	2009年～2017年	附属小中学校や県立高校の教員など各校種の教員との交流を深めて、教育実践の発表や研究会等に際して共同研究や助言を行ってきた。「書道科教育法Ⅰ,Ⅱ」「小学校国語B」「中学書写Ⅰ,Ⅱ」では、これら現職教員の実践発表を学生が参観して学ぶ機会を設けてきた。また、各校種の現場において、学生による授業者やTTの指導アシスタント、教材作成者として実践力を磨く機会や現職教員を招いての講義を受講する機会も設けてきた。卒論での調査に関わる交流も行ってきた。
19.教育内容のインターネット上での公開	2002年～2019年3月	HP「亀岡高校書道教育のページ」（2002～2008年度）を

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		開設し、高等学校での授業内容や部活動、地域で開催した校外展等、様々な教育実践を紹介、発信してきた。また2002年の実践「書と音楽の融合」では単元計画にwebでの作品公開を設定する等、「発表」を課題解決学習での要点の一つとした。現場発信による書教育のHPは当時は希少であった。 2009年から平田個人のHP「CROSS ROAD」内に移管し、HPは2019年３月まで公開した。（2019年３月を以てサーバー契約が終了、その後ドメイン［アカウント］を所有していない）
20.学外での展覧会の企画・開催（高等学校在職期間）	1998年～2008年度	・第１～８回 京都府立亀岡高等学校書道展 於：ガレリアかめおか（2002～2008年度） 於：ギャラリー風草園（2001年） ・第１、２回 京都府立東舞鶴高等学校美術・書道展 於：舞鶴赤れんが博物館（1999年） 於：舞鶴市総合文化会館（1998年） ・第１、２回 京都府中丹地域合同美術・書道展 於：綾部アスパ（1999年） 於：福知山ファミリー（1998年）
21.部活動指導（高等学校在職期間）	1996年4月～2009年3月	＜書道部顧問＞　学校内外での展示活動をはじめ、マルチメディアや身体表現を用いた先端の芸術表現にも取り組んだ。 　文科系クラブ活性化推進事業「文化の力を育む［京育］」の初年度と次年度に亀岡高校書道部が選出され（2007～2008年度）、京都府教育委員会からの助成を受けて活動を報告した。「京育」には、優れた活動を行ってきた文科系クラブが選定された。 　学生書展では、全国高等学校総合文化祭京都府代表として７回出品（全国受賞２度）や近畿高等学校総合文化祭京都府代表の他、全日本高校・大学生書道展や国際高校生選抜書展、日本学書展等で入賞をおさめた。 ＜ラグビー部顧問＞　2000～2004年度。 ＜ボート部顧問＞　1996～1997年度。男子ボート部監督として全国高等学校総合体育大会（インターハイ）’97京都総体に出場、また同部顧問として全国高等学校総合体育大会（インターハイ）’96山梨総体に出場した。 　上記の運動部顧問を通してグループ作りを含めた生徒指導力や自主活動の指導力等の向上につとめた。
22.進路指導（高等学校在職期間）	1996年４月～2009年３月	卒業学年の担任として、進学クラスおよび一般クラスを担当した。また教科教育および部活動を通して大学書道コースへの進学希望者に対する指導をおこない、全員が進学した。 進学先（書道課程）は、京都教育大学６名、京都橘大学５名、花園大学１名、四国大学１名。
23.分掌業務（高等学校在職期間）	1996年４月～2009年３月	生徒指導部を７年担当した。生徒指導力の向上、および生徒の自主性や協調性を涵養するため生徒会活動を通した自主活動支援につとめてきた。また文化祭や体育祭、球技大会等の行事の主担を通して学校運営の基礎力向上につとめてきた。
24.担任業務（高等学校在職期間）	1996年４月～2009年３月	学年団配属を２度経験し、担任として合計６年間従事した。学級経営を始めとする指導力の向上につとめた。また、そのうちの２年間は進学クラスを担当し、進路指導の充実にもつとめた。
2 作成した教科書、教材		
1.動画による実技解説資料	2020年4月現在	実技の理解を深めるため、オンデマンドの学習資料として、上記のスライド資料と連動した動画資料を多数

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
2.KEY NOTEによるオンデマンド・スライド資料など	2020年4月現在	作成した。 ・漢字（篆隷楷行草の各書体）の様々な古典の用筆や造形の解説動画 ・仮名の様々な古筆の用筆や造形の解説動画 ・用具用材の扱いに関する解説動画 次の領域について、授業理解を深めるためのスライド資料を多数作成した。内容は、美しさと分かりやすさ、専門性の深さを重視した。 ・書道科指導法の解説資料（小中学校書写・高校書道） ・漢字の各書体における様々な古典の解説資料 ・仮名の様々な古筆の解説資料
3.KEY NOTEによるスライド資料など	2009年～2019年度	次の領域について、授業理解を深めるためのスライド資料や学習プリントなどを作成した。 ビジュアルの美しさと分かりやすさに、特に配意した。 ・小中学校国語科 書写教育 ・高校芸術科 書道教育 ・日本書道史 ・中国書道史
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.兵庫県立教育研修所主催 教員研修「生徒の主体的な学びを実現する芸術科（書道）の授業づくり」	2023年8月2日	高校教員５年次相当研修講座、及び高等学校中堅教諭等資質向上研修受講者を対象とした研修の講師を担当した。依頼されたのは、表記講座の「ICTを活用した芸術科（書道）の授業実践について」と題する講義で、高等学校の現職書道教員５名が受講した。
2.兵庫県立教育研修所主催 教員研修「ICTを活用した芸術科（書道）の授業づくり」	2022年8月26日	高校教員５年次相当研修講座、及び高等学校中堅教諭等資質向上研修受講者を対象とした研修の講師を担当した。高等学校の現職書道教員５名と特別支援学校国語科教員１名の計６名が受講した。
3.日本書学研究会主催「愛知支局研究会 講話・実技指導」	2017年4月16日	直筆と側筆、執筆法に関する講話と作品制作の指導をおこなった。 於：ホテルルブラ王山
4.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「指導法講座 書芸術の歴史と美について-仮名書の視点から- 」	2016年8月3日	同上
5.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「指導法講座 -仮名書法の研究- 」	2016年8月3日	高等学校芸術科書道の教員免許更新講習の講師を務めた。 高等学校の現職書道教員６名が受講した。 於：岩手県立総合教育センター
6.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「指導法講座 -漢字仮名交じり書法の研究－」	2016年8月3日	同上
7.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「鑑賞学習とその評価・ 「指導と評価」の課題」	2016年8月3日	同上
8.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「中学校国語科書写指導のポイント」	2015年8月6日	中学校国語科の教員免許更新講習の講師を務めた。 中学校の現職国語科教員が受講した。 於：岩手県立総合教育センター
9.岩手県書写書道教育研究協議会主催「第８回書写実技指導講習会」	2015年8月5日	講習会の講師を務めた。 小中学校の現職教員41名が参加した。 於：岩手大学
10.岩手県書写書道教育研究協議会主催「第７回書写実技指導講習会」	2014年8月7日	講習会の講師を務めた。 小中学校の現職教員40名が参加した。 於：岩手大学
11.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「中学校国語科書写指導のポイント」	2014年8月4日	中学校国語科の教員免許更新講習の講師を務めた。 中学校の現職国語科教員36名が受講した。 於：岩手県立総合教育センター
12.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「指導法講座 書芸術の歴史と美につ	2014年7月31日	同上

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
いて-仮名書の視点から- 」		
13.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「指導法講座 -仮名書法の研究- 」	2014年7月31日	高等学校芸術科書道の教員免許更新講習の講師を務めた。 高等学校の現職書道教員が受講した。 於：岩手県立総合教育センター
14.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「指導法講座 -漢字仮名交じり書法の研究－」	2014年7月30日	同上
15.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「鑑賞学習とその評価・「指導と評価」の課題」	2014年7月30日	同上
16.花巻市生涯学習課主催：岩手大学教育学部出前講座「美文字のススメ～“書く”楽しさの秘訣～」	2014年1月29日	生涯学習講座の講師を務めた。一般市民が受講した。 於：花巻市生涯学園都市会館
17.岩手大学主催 教職経験者10年研修「書写実技のポイント（小中学校）」	2013年8月9日	教職経験10年期研修の講師を務めた。 小中学校の現職教員8名が受講した。 於：岩手大学
18.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「中学校国語科書写指導のポイント」	2013年8月5日	中学校国語科の教員免許更新講習の講師を務めた。 中学校の現職国語科教員が受講した。 於：岩手県立総合教育センター
19.日本書学研究会主催「秋田支局研究会 講話・実技指導」	2013年5月12日	書と心理学に関する講話と作品制作の指導をおこなった。 於：秋田県生涯学習センター分館（ジョイナス）
20.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「指導法講座 書芸術の歴史と美について-仮名書の視点から- 」	2012年8月10日	高等学校芸術科書道の教員免許更新講習の講師を務めた。 高等学校の現職書道教員4名が受講した。 於：岩手県立総合教育センター
21.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「指導法講座 -仮名書法の研究- 」	2012年8月10日	同上
22.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「指導法講座 -漢字仮名交じり書法の研究－」	2012年8月9日	高等学校芸術科書道の教員免許更新講習の講師を務めた。 高等学校の現職書道教員4名が受講した。 於：岩手県立総合教育センター
23.岩手県総合教育センター主催 授業力向上研修（教員免許更新講習）「鑑賞学習とその評価・「指導と評価」の課題」	2012年8月9日	同上
24.岩手大学主催 教職経験者10年研修「書きながら学ぶ、小・中学校書写指導講座」	2012年8月8日	教職経験10年期研修の講師を務めた。 小中学校の現職教員2名が受講した。 於：岩手大学
25.岩手県書写書道教育研究協議会主催「第６回書写実技指導講習会」	2012年8月6日	講習会の講師を務めた。 小中学校の現職教員45名が参加した。 於：岩手大学
26.日本書学研究会主催「山形支局研究会 実技指導」	2012年4月21日～22日	作品制作の指導をおこなった。 於：かんぽの郷 酒田
27.盛岡市教育委員会主催 盛岡市教育研究所 第２回公開講座「書写指導法講座（毛筆）」	2011年12月28日	2011年度冬期（第２回）に開催された教員対象の公開講座の講師を務めた。 小中学校の現職教員15名が受講した。 於：岩手大学
28.盛岡市教育委員会主催 盛岡市教育研究所 第２回公開講座「書写指導法講座（毛筆）」	2010年12月28日	2010年度冬期（第２回）に開催された教員対象の公開講座の講師を務めた。 小中学校の現職教員14名が受講した。 於：岩手大学
29.岩手県書写書道教育研究協議会主催 「第５回書写実技指導講習会」	2010年8月10日	講習会の講師を務めた。 小中学校の現職教員60名が参加した。 於：岩手大学
30.岩手大学主催 教職経験者10年研修 「国語科書写の学習指導	2010年8月5日	教職経験10年期研修の講師を務めた。 小中学校の現職教員2名が受講した。 於：岩手大学
31.日本書学研究会岩手支局第１回勉強会 「漢字の古典について」	2010年8月1日	左記の内容について、講話と実技指導をおこなった。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
32.盛岡市教育委員会主催 盛岡市教育研究所 第２回公開講座「書写指導法講座（毛筆）」	2010年1月13日	於：盛岡市上田公民館 2009年度冬期（第２回）に開催された教員対象の公開講座の講師を務めた。 小中学校の現職教員29名が受講した。
33.岩手大学主催 免許状更新講習 「高等学校「書道」の学習指導」	2009年8月12日	於：都南公民館 教員免許状更新講習の講師を務めた。 高等学校の現職書道教員が受講した。
34.岩手大学主催 免許状更新講習 「高等学校「国語」の学習指導」	2009年8月10日	於：岩手大学 教員免許状更新講習の講師を務めた。 高等学校の現職国語科教員が受講した。
35.日本書学研究会 第１回研究会 「書の魅力をどう引き出していくのか？-高等学校現場教師から-」	2006年5月14日	於：岩手大学 左記の内容について、講話と質疑をおこなった。 於：ラッセホール
36.大学から受け入れた実習生等に対する指導	2005年～2007年	京都府立亀岡高等学校在職中に、下記の教育実習生を受け入れて指導した ・花園大学４回生１名（2007年：書道の教科指導およびクラス担任指導） ・京都教育大学４回生１名、京都橘大学４回生１名（2005年：書道の教科指導およびクラス担任指導）
37.京都教育大学「中等書道科教育Ⅰ」講義	2004年7月6日	京都府立亀岡高等学校在職中に、左記の講義１回分を担当した。高等学校書道教育の実践を紹介した。 於：京都教育大学
38.京都府立亀岡高等学校「PTA書道教室」	2003年8月、2002年8月	京都府立亀岡高等学校在職中に、左記の講座を開講した。制作した作品は、文化祭、および書道履修生や書道部員、OB、教員有志らが出品する校外書道展にPTA作品展として展示した。開講期間は下記の通り。 ・2002年8月（2日間） ・2003年8月（2日間）
39.京都府立学校開放講座「書道に親しむ」	1996年～1999年	京都府立東舞鶴高等学校在職中に、京都府立学校開放講座として、地域一般の方（30名）を対象とする生涯学習講座を開講した。開講期間は下記の４年間、開講時間数は各年30時間ずつであった。 ・1999年10～12月 ・1998年10～12月 ・1997年10～12月 ・1996年10～12月
4 その他		
1.教員採用試験問題の作成	2018年5月、2014年5月	2014年度、2018年度に西日本（都道府県は非公表）で実施された、教員採用試験における専門教科（高等学校芸術科書道）の１次試験問題（理論）を作成した。
2.岩手大学附属中学校　第２回教育実践交流会 国語科研究授業　共同研究者	2013年11月	中学校第２学年「決意の言葉に思いをのせて［立志式］に向けた書写の授業提案」
3.第44回東北書写書道教育研究会岩手大会 小学校（中学年）分科会研究協議　助言者	2013年11月	左記の授業研究（小学校中学年）について、公開授業後の研究協議で助言者をつとめた。
4.第44回東北書写書道教育研究会岩手大会 研究部研究係	2013年度	・小学校第４学年「筆順と字形の関係を知ろう」 ・中学校第２学年「後世に伝えたい啄木短歌～行書と仮名を調和させて書こう～」 当該授業の発表者（中学校国語科教員１名、小学校教員１名）への準備・研究段階における協力・助言
5.全国中学校総合文化祭岩手大会特別展示「啄木かるた」作成に関わる授業等　実践協力	2012年～2013年	中学校第３学年「かるた作成」単元の授業者学生の指導と派遣、学生による手本教材の執筆に対する指導をおこなった。
6.第35回岩手県書写書道教育研究協議会滝沢大会 中学校分科会研究協議　助言者	2011年11月	左記の授業研究（中学校）について、公開授業後の研究協議で助言者をつとめた。
7.第35回岩手県書写書道教育研究協議会滝沢大会 研究部研究係	2011年	中学校第３学年「これまでの学習を生かして［調和を考えて書く］」 当該授業の発表者（中学校国語科教員１名）の準備・研究段階における協力・助言
8.教育実習委員	2009年度～2015年	2009年～2013年度、2015年度に、教育学部の教育実習委員として、大学附属の幼小中学校および盛岡市内の小

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		中学校を訪問し、実習校と連携協力して教育実習生の学習を支援した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.中学校教諭　一種免許状	1996年3月31日	国語、平７中-め　第1985号　京都府教育委員会
2.高等学校教諭一種免許状	1996年3月31日	国語、平７高-め　第2609号　京都府教育委員会
3.高等学校教諭一種免許状	1996年3月31日	書道、平７高-め　第2720号　京都府教育委員会
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.ともしびの賞 選考委員	2024年8月	ともしびの賞は、兵庫県内の各地域において、長年にわたり文化の向上に著しい功績を残してきた個人又は団体を表彰する賞。選考を担当した地区は非公表とする。
2.追手門学院大学　非常勤講師	2023年4月1日～現在	担当科目：書道Ⅰ，書道Ⅱ
3.京都産業大学　非常勤講師	2023年4月1日～現在	担当科目：書道
4.全国大学書写書道教育学会　本部委員（企画広報局）	2020年4月～現在	左記学会の理事・本部役員（企画広報局）を務め、学会会報の編集などにあたっている。
5.国立大学法人 岩手大学　非常勤講師	2018年4月～2018年9月	担当科目：書道科教育法Ⅱ，造形実習（日本書法）C
6.全国大学書写書道教育学会　理事	2017年4月～現在	左記学会の理事(2017～2018年度・東北地区，2019年度～・関西地区)を務めている。
7.国立大学法人 奈良教育大学　非常勤講師	2016年10月～2018年3月、2019年4月～2020年３月	担当科目：仮名書法論（2016年度），古筆研究Ⅰ（2015，2016，2019年度），古筆研究Ⅱ（2016，2019年度），仮名造形論（2015，2016，2019年度），仮名創作法Ⅰ（2015～2017年度），仮名創作法Ⅱ（2016，2017，2019年度）
8.国立大学法人 弘前大学　非常勤講師	2016年～現在	担当科目：書道Ⅰ
9.第24回市町村職員作品展（岩手県）　審査員	2014年11月	
10.全日本書写書道教育研究会　副会長	2014年～2018年3月	
11.平泉遺跡群出土文字資料検討委員会　助言者	2011年1月～2013年1月	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課 平泉遺跡群調査事務所
12.放送大学　非常勤講師	2011年、2013年	担当科目：書へのいざない（2011年），書へのいざない２（2013年）
13.第29回近畿高等学校総合文化祭　講師	2009年11月	書道部門講評会
14.岩手県書写書道教育研究協議会　常任理事	2009年4月～2018年3月	
15.京都府教育美術展覧会　事務局次長、書道部門長	2008年4月～2009年3月	
16.京都府教育美術展覧会　理事	2007年4月～2008年3月	
17.京都府立高等学校書道教育研究会　委員（役員）	2007年度～2008年	
18.京都府高等学校書道教育研究会 委員（役員）	2007年度～2008年	
19.京都府高等学校芸術文化連盟　副委員長	2005年4月～2007年3月	
20.京都府高等学校芸術文化連盟書道部門　講師	2000年7月	指導者・生徒講習会
21.京都府立高等学校書道教育研究会　委員（役員）	1998年度～2003年	
22.京都府高等学校書道教育研究会 委員（役員）	1998年度～2003年	
4 その他		
1.学内委員等 資格課程支援・情報発信委員会	2024年4月～現在	高校書道の教員免許取得、および中高国語、日本語教員などの資格取得に関する支援内容の充実や情報発信について、整備してきた。
2.企画展での作品紹介 「有心’15」	2023年9月30日～2024年1月8日	奈良市杉岡華邨書道美術館の企画展「京都教育大学で学んだ書家群像展」に選抜され、旧作「有心’15」（2015）を出品展示した。文化勲章受賞者・日本芸術院会員の井茂圭洞氏をはじめ、芸術院賞受賞作家４名を含む19名が依頼を受けて出品した。
3.メディア掲載（研究室・指導学生） 「レポート　大学卒業制作展」	2023年5月	武庫川女子大学書道ゼミの卒業制作展の様子が、芸術新聞社『墨』282号、p.151、「レポート 令和４年・2023年度 大学卒業制作展」（2023年5,6月）に掲載された。
4.学内委員等 募集対策委員	2023年4月～現在	未来型選抜入試の立ち上げ、および運用に注力した。25年度より取りまとめを担当。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
5.学内委員等 キャリア対策委員	2023年4月～現在	従来の日文学科で、キャリア対策委員、学科の就職支援・シニアプログラム企画委員、資格取得関連委員とで分担していた内容を、キャリア対策委員の仕事に一本化して担当し、学科のキャリア対策を、１～４年次にかけての全体のデザインとして整理・体系化してきた。就職率100%の達成や、学科生のコミュニケーション力を高めるための独自講座の開講、MOSの合格率100%などの成果があった。
6.NPO法人 兵庫書写・書道教育協会　評議員	2023年4月～現在	左記協会の評議員を務めている。
7.メディア掲載（研究室・指導学生） 「新世代へのエール 筆もて進め　武庫川女子大学」	2022年11月	武庫川女子大学書道ゼミでの指導学生のインタビューと作品、および研究室の紹介が、 芸術新聞社『墨』279号、pp.144-145、「新世代へのエール 筆もて進め 武庫川女子大学」（2022年11,12月）に掲載された。
8.武庫川女子大学 学長表彰「授業改善奨励賞」	2022年10月	武庫川女子大学授業改善奨励制度において、学長表彰「授業改善奨励賞」を授与された。
9.学内委員等 学院親睦会幹事	2022年4月～2024年3月	左記、担当として庶務にあたった。
10.メディア掲載（作品） 「春霞立つ」	2022年1月～2月	「春霞立つ」（2021）が、次のメディアで紹介された。 ・「創立二十周年記念一先会選抜書展-古典に学ぶ-」墨，創刊45周年，274，芸術新聞社発行，p109（2022年2月）
11.学内委員等 PCR検査調査委員	2021年4月～2025年3月	左記、担当として庶務にあたった。
12.メディア掲載（作品） 「桃花」	2021年4月	「桃花」（2021）が、次のメディアで紹介された。 ・美術新聞，1189号，美術新聞社発行，p7（2022年4月）
13.論説資料への掲載 単著（2017）「右払いやはねから感受される視覚的効果」	2020年9月30日	左記拙稿が、 「日本語学論説資料」第五十五号，第一分冊（国語学一般・国語史・文字・表記），発行・論説資料保存会，協力・国立国語研究所，p273-276に推薦を受けて収録・紹介された。
14.学内委員等 キャンパスガイド編集委員	2020年4月～2023年3月	全学のキャンパスガイドと学科パンフレットの作成を担当した。在任中は、コロナ禍で学生の登学が制限されて行事や撮影も限られた中で、従来のパンフレットを踏襲しつつ、学生の姿を表紙に全面的に活用するデザインに舵を切り、日文の様々な分野も紹介した。この間、志願倍率も好調で、パンフを見て学科を受験したという学生の声も聞いていた。
15.メディア掲載（作品） 「梅花」	2020年2月	「梅花」（2020）が、次のメディアで紹介された。 ・菅原教夫「書・展覧会評」美じょん新報，245号，ビジョン企画出版社発行，p11（2020年2月）。
16.学内委員等 クラス担任	2019年4月～現在	2019年より現在まで、毎年クラス担任を務めている。これまでに短大クラス２回（４年間）、４大クラス１回（２年間）を担当し、2025年度も１年担任を務める。
17.公益社団法人 日展　会友	2019年4月～現在	2018年の日展入選10回目を以って日展会友に推挙された。現在，入選12回。
18.学内委員等 学科親睦会委員	2019年4月~2022年3月	左記、担当として庶務にあたった。
19.メディア掲載（作品） 「初雪」	2019年2月	「初雪」（2019）が、次のメディアで紹介された。 ・神崎充晴「書・展覧会評」美じょん新報，233号，ビジョン企画出版社発行，p11（2019年2月）。
20.学内委員等 学生委員	2018年4月～2020年3月、 2021年4月～2023年3月	特に21年度からの任期では、コロナ禍で学生間の引き継ぎや活動が途切れてしまった学友会・学科幹事会の取り組みについて、ZOOMでのミーティングを頻繁に行いながら、活動を立て直し、学生の主体性やリーダーシップを育てた。新入生歓迎会なども会場や内容の規模を大きく膨らませる形で大幅に内容を更新し、部活

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		動への入部を促進した。
21.学内委員等 ホームページ委員（サーバー管理）	2018年4月～2023年3月	学科オリジナルHPの大幅なリニューアルを学科より託されて、サイトの全体構成、研究室だよりをはじめとする新しいコンテンツの企画、ページデザインなどを主導して、HPのデザイン・内容を一新した。
22.メディア掲載（作品） 「散花」	2018年3月	「散花」（2018）が、次のメディアで紹介された。 ・松原清「第17回一先会書展」全日本美術，777，全日本美術新聞社発行，p4（2018年3月）。
23.メディア掲載（作品） 「風」	2017年12月～2018年2月	「風」（2017）が、次のメディアで紹介された。 ・話題の書道展「創立15周年記念一先会選抜書展」墨，250，芸術新聞社発行，p203（2018年2月）。 ・菅原教夫「書・展覧会評」美じょん新報，219号，ビジョン企画出版社発行，p10（2017年12月）。
24.メディア掲載（作品） 「雪梅」	2017年4月～2017年5月	「雪梅」（2017）が、次のメディアで紹介された。 ・新翁美術新聞，1440，美術年間社発行，p6（2017年５月）。 ・神崎充晴「書・展覧会評」美じょん新報，211，ビジョン企画出版社発行，p9（2017年4月）。 ・松原清「第16回一先会書展」全日本美術，767，全日本美術新聞社発行，p5（2017年4月）。
25.メディア掲載（作品） 「雪と梅」	2016年4月～2016年7月	「雪と梅」（2016）が、次のメディアで紹介された。 ・創刊40周年記念特集「U50新世代の書家達」墨，241，芸術新聞社発行，p88-p95（2016年7月） ＊作家紹介とともに掲載。 ・松原清「第15回一先会書展」全日本美術，756，全日本美術新聞社発行，p5（2016年4月）。
26.日本デザイン学会　査読担当	2016年～現在	投稿論文の査読数編を担当した。 （担当年度は非公表とする）
27.論文等への引用 共著筆頭（2013）「文字造形の感性評価１：整斉を基調とする文字の美的評価」	2016年	左記拙稿が、 李・崔・小山ら（2016）「文字の太さによる印象の変化-明朝体・ゴシック体のひらがなとカタカナを中心に」デザイン学研究，63（5）,p101-p108で引用された。
28.論文等への引用 単著（2014）「楷書の書風に関する美的評価-点画の形状および向背法について-」	2016年	左記拙稿が、 李・崔・小山ら（2016）「文字の太さによる印象の変化-明朝体・ゴシック体のひらがなとカタカナを中心に」デザイン学研究，63（5）,p101-p108に引用された。
29.メディア掲載（作品） 「春花」	2015年7月	「春花」（2015）が、次のメディアで紹介された。 ・「話題の展覧会 第69回 日本書芸院展 新進気鋭の魁星作家」墨，235，芸術新聞社発行，p155（2015年7月）。
30.メディア掲載（研究室・指導学生） 「レポート　大学卒業制作展」	2015年5月	岩手大学書道コースの卒業制作展の様子が、 芸術新聞社『墨』240号、p.170、「レポート 2015年度大学卒業制作展」（2015年5,6月）に掲載された。
31.岩手大学 優秀教員表彰（研究部門）	2015年3月	平成25～26年度の２年間の研究業績に対して表彰された。各学部から研究部門１名と教育部門１名とが推挙された。表彰制度の初年度であった。
32.公益社団法人日本書芸院　評議員	2015年2月～現在	
33.論文等への引用 共著（2012）「平泉出土文字資料の再検討その１」	2015年	左記拙稿が、 吉田（2015）「墨書土器・折敷にみる散らし書き-柳之御所遺蹟出土文字資料の調査報告を中心として-」書道学論集，13，p47-p65で引用された。
34.論文等への引用 単著（2012）「平泉文字資料の筆跡」	2015年	左記拙稿が、 吉田（2015）「墨書土器・折敷にみる散らし書き-柳之御所遺蹟出土文字資料の調査報告を中心として-」書道学論集，13，p47-p65で引用された。
35.論文等への引用 共著（2013）「平泉出土文字資料の再検討その２」	2015年	左記拙稿が、 吉田（2015）「墨書土器・折敷にみる散らし書き-柳之

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		御所遺蹟出土文字資料の調査報告を中心として-」書道学論集，13，p47-p65で引用された。
36.メディア掲載（作品） 「梅の花」	2014年12月	「梅の花」（2014）が、次のメディアで紹介された。 ・小野寺啓治「改組 新 第１回日展」書道ジャーナル，526，書道ジャーナル研究所発行，p2（2014年12月）。
37.メディア掲載（作品） 「光彩」	2014年4月	「光彩」（2014）が、次のメディアで紹介された。 ・松原清「第13回一先会書展」全日本美術，733，全日本美術新聞社発行，p5（2014年4月）。
38.メディア掲載（作品） 「はるひ」	2013年4月	「はるひ」（2013）が、次のメディアで紹介された。 ・田宮文平「第12回一先会書展」書道，699，五禾書房，p25-27（2013年4月）。 ・松原清「第12回一先会書展」全日本美術，722，全日本美術新聞社発行，p5（2013年4月）。 ・「書・展覧会評」美じょん新報，161，ビジョン企画出版社発行，p7（2013年2月）。
39.読売書法会　審査員	2013年度	
40.メディア掲載（作品） 「万葉のうた」	2012年10月	「万葉のうた」（2012）が、次のメディアで紹介された。 ・「読売書法展［東北展］」読売新聞岩手版，p34（2012年10月）。　＊地域面
41.メディア掲載（作品） 創立10周年 一先会俊秀作家展 出品作（３点）	2011年11月	創立10周年 一先会俊秀作家展 出品作３点（2011）が、次のメディアで紹介された。 ・菅原教夫「書・展覧会評」美じょん新報，146，ビジョン企画出版社発行，p6（2011年11月）。
42.メディア掲載（作品） 「万葉集 春」	2010年10月	「万葉集 春」（2010）が、次のメディアで紹介された。 ・「読売書法展［東北展］」読売新聞岩手版，地域面（2010年10月）。
43.大学での分掌等業務（岩手大学在職期間）	2009年4月～2018年3月	岩手大学在職中に次の委員を担当した。 教育実習委員、学務委員、就職委員、広報委員、点検評価委員、新課程専門委員、芸術文化課程専門部会委員、運営委員会委員（芸術・スポーツ課程WG）、FD推進委員。
44.読売書法会　理事	2009年～現在	
45.評価・推薦等 「府立学校運営基礎講座」（京都府教育委員会）受講	2006年度	管理職としての資質能力の育成を目的とする「府立学校運営基礎講座」（京都府教育委員会）の受講者として推挙され、プログラムを履修した。推薦された参加者は府立高校の教員17名。部長職に就く40～50代の教員が中心の中で、30代前半での参加は最年少であった。 テキストは「学校組織マネジメント研修-これからの校長・教頭等のために-」文部科学省，2004。
46.メディア掲載（作品） 「古今和歌集」	2005年5月	「古今和歌集」（2005）が、次のメディアで紹介された。 ・西嶋慎一「書・展覧会評」美じょん新報，68，ビジョン企画出版社発行，p6（2005年5月）。
47.論文等への引用 単著（2004）「書と音楽の融合-音楽選択生徒との共同作品制作-」	2004年	左記拙稿、および研究発表の内容が、 田中（2004）「全国高校諸同教育研究大会報告」第15回石川県書写書道教育研究大会集録，p7-p9で紹介され、評価された。
48.全日本高等学校書道コンクール　審査員	2002年1月	
49.日中国際文化交流書道展　審査員	2000年～現在	左記、書道展の審査員を務めている。担当年度は次の通り。 ・2000年 ・2005～2011年 ・2015年～現在

研究業績等に関する事項

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.書の理論と古典　改訂版	共	2020年3月19日	全国大学書道学会編，光村図書	p86。 書学書道史、書教育に関する著書（分担執筆）。大学での講義・実技科目で使用するテキストとして、元永本古今集の学術的な解説、および実技学習におけるポイントを記した。
2.国語科書写の理論と実践	共	2019年3月1日出版	全国大学書写書道教育学会編、萱原書房	p32-p37。 書教育に関する著書（分担執筆）。小中学校国語科書写の学習内容について、小中学校の教員や大学教員が授業や講義で活用できるように解説がなされたもの。平仮名や片仮名の学習に関する解説や授業のポイント、展開例などを示した。
3.高等学校書道Ⅱ指導資料	共	2008年4月	東京書籍	p20-p21担当。 書教育、書道史に関する解説。高等学校教科書の指導書の分担執筆。「漢字仮名交じりの書：発展（張遷碑に基づく表現）」を担当。年度当初の単元を想定した４時間の展開例。張遷碑の書風を既習の隷書との比較から看取させる。逆入蔵鋒から逆入平出への展開、丈高の結体と短めの波磔による古朴を着眼点とした。
4.高等学校書道Ⅰ指導資料	共	2007年4月	東京書籍	p28-p29担当。 書教育に関する解説。高等学校教科書の指導書の分担執筆。「漢字仮名交じりの書：チャレンジ（古典を生かした創作）」を担当。漢字仮名交じりの書の単元は書写書道の接続において興味・関心を継続させるねらいも持つ。古典学習に先立つ学習を想定して、素直な印象から分析的鑑賞へと導くこと、初歩的な構成の工夫に学習の主眼をおくことを展開上の重点（学習目標）とした。
5.高等学校書道Ⅲ指導資料	共	2005年4月	東京書籍	p28-p29担当。 書教育、書道史に関する解説。高等学校教科書の指導書の分担執筆。「前後赤壁賦、李？詩残巻、伊都内親王願文」を担当。指導の着眼点を、前後赤壁賦は熟達した確かな造形と用筆、李？詩残巻は露鋒による鋭さと起筆転折が生むリズム、伊都内親王願文は多彩な用筆とした。
2 学位論文				
1.書と書教育における美の構図	単	2024年9月4日	博士学位論文（学校教育学） 兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究科 教科教育学実践学専攻芸術系教育連合講座 449頁（1400字詰）	書写と書道は、文字を書くことの学びとして本来は一つの分野としてのまとまりを持ちうるが、学校教育においては、小・中学校国語科の書写と、高等学校芸術科の書道として、校種と教科を跨ぐ関係にある。本研究は、「美」を観点として、これを一つなぎに論じるものであり、書写教育と書道教育の接続、および書写と書道それぞれの内容を捉え直す研究である。研究は２部構成である。第１部は、小中学校国語科に位置する「書写」の内容に「美と個性」を穏当に位置付けることを目的とした。第２部は、筆意について書論や創造性を観点として論じ、その知見を踏まえて、高等学校での教育実践を研究した。
3 学術論文				
1.散らし書きの構図論（査読付）	単	2022年3月31日	国際日本文化研究センター 日本研究 第64号	書学、書道史に関する研究。本研究は、仮名の「散らし書き」の二次元的構成を構図によって把握し、分析する方法を提示するものである。本研究では、まず中世の型による教示や現代のアウトラインによる形式分類などが用いられた散らし書き理論を再確認し、各論の要点を抽出した。続けて新しい散らし書きの理論として補助線を用いた構図法を提案し、実際の古筆を用いた分析を行なった。補助線を用いた分析によって、紙面に潜在する行と行との関係や視線の流れが可視化され、空間の変化と統一を形成する具体的要因や、書き手が散らし書きにあたって感覚的に見定めていたものを客観的に推察することができた。従来の理論とは異なる視点から散らし書きの構成を読み解く方法として、仮名の構図論に新たな地平をもたらすことが期待される。
2.右払いやはねから感受される視覚的効果（査読付）	単	2017年3月	全国大学書写書道教育学会 書写書道教育研究 第31巻	p33-p39。 書教育、書学に関する研究。 平田・阿久津（2013）、平田（2014）において、払いやはねが装飾であり、また視覚を通して身体運動を想起しやすい画であることを指摘し、これらが字形に関連すると推察した。本研究の視覚的効果の検討から、この２点の性質が実証的に確認された。字形と毛筆の特性との関連、書写と美の関係等について考察した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3.王朝仮名古筆にあらわれた美の諸相（査読付）	単	2016年3月1日	岩手大学教育学部 岩手大学教育学部研究年報 第75巻	p113-p130。 書学、書道史に関する研究。王朝仮名古筆の美について、美意識や感性の働きを観点として筆意の詳細な分析をおこなった。また視覚的効果として線が形成する視線の流れや空間への働きかけ等について考察した。当時の美意識を知る上で「源氏物語」等も参照した。
4.囲み構成の字形に関する美意識：外形と接筆を観点として（査読付）	単	2016年3月	全国大学書写書道教育学会 書写書道教育研究 第30巻	p31-p40。 書教育、書学に関する研究。書教育の学習内容である外形（下を絞る構成と幅を一定にする構成）および接筆の接離がもたらす美的印象を感性評価によって研究した。外形については伝統的な構成として九成宮醴泉銘、孔子廟堂碑の実測調査もおこない、学習の根拠となってきた経験的把握の妥当性も確認した。
5.書の展示と鑑賞に関する研究２ -展示要素とスペース・シンタックス理論による空間分析-	単	2014年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第144号	p2-p9。 書学に関する研究。展示や鑑賞の実証研究は、展示学やデザイン学領域で進められてきた。本研究では、キャプション等の展示要素に関する調査、および建築領域で空間指標に使用されるスペース・シンタックス理論を活用した書展空間の分析と提案を行った。鑑賞行動を決定し易い環境を作る必要性を実証的に述べた。
6.楷書の書風に関する美的評価-点画の形状および向背法について-（査読付）	単	2014年3月	岩手大学教育学部 岩手大学教育学部研究年報 第73巻	p25-p35。 書教育、書学、書道史に関する研究。向背および方筆円筆による点画の形状は文字上の個性の要因となる。その美的印象を研究した結果、柔和性・温和性因子に違いをもたらす一方で、価値因子には影響を与えなかった。考察は張懐？「書断」等を参照して論じた。本研究の結果は、特に書写教育における個性を考える際に有用な実証的知見である。
7.書の展示と鑑賞に関する研究１ -展示内容と視覚的印象の関係-	単	2014年2月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第143号	p2-p9。 書学、書教育に関する研究。美術展示において表現者と鑑賞者の乖離が指摘されている。両者を繋ぐ発表・展示によるコミュニケーションの構築は筆者の高校書教育での実践テーマであった。本研究は可読性や現代性等に違いのある展示サンプルを用いて鑑賞者の立場から書展空間を分析した。付帯項目では約半数の回答者が可読性や内容理解と評価が関連するとした。
8.楷書の点画構成における“はね”を有する画の美的印象（査読付）	単	2014年2月	日本デザイン学会 デザイン学研究 第61巻４号	p1-p8。 書教育、書学、書道史に関する研究。手書き文字への活字の影響が指摘される一方、タイポグラファーは書の文字を研究している。書教育の充実には周辺領域との連携も必要と考え、本研究を活字の専門家も参画するデザイン学会に発表した。書写の範書など整斉な楷書では隷書の波磔から派生した“はね”を有する画を右に長く強調する。研究の結果、この構成の優位性が多元的に示された。
9.文字の下部における縦画の美的強調（査読付）	単	2013年10月	日本官能評価学会 日本官能評価学会誌第17巻2号	p112-p119。 書教育、書学に関する研究。書写の範書となる整斉な楷書では縦画の強調構成も指導の要点である。この構成の美的な説明根拠を感性評価により検証した。九成宮醴泉銘での構成頻度を調査し参照したところ、評価結果は古典での構成頻度を裏付けるものであった。
10.文字造形の感性評価１：整斉を基調とする文字の美的評価（査読付）	共	2013年4月	日本官能評価学会 日本官能評価学会誌第17巻１号	p21-p28。 平田光彦、阿久津洋巳。 書教育、書学に関する研究。楷書の点画構成を涵養してきた造形意識を、美意識から研究する手法を提案した。SD法、因子分析、項目反応理論を使用し、「均整美」「開放性（活動性）」「力量性」の三次元尺度を構成した。実験、分析、執筆が平田、実験、分析、計画等の助言や本文補筆が阿久津。 ＊学術論文９は、前掲李・崔ら（2016）で引用された。
11.平泉出土文字資料の再検討 その２	共	2013年3月	岩手県教育委員会 平泉文化研究年報 第13巻	p67-p73。 岡陽一郎（代表）、阿部勝則、小岩弘明、時田里志、七海雅人、平田光彦（五十音順）。 書道史に関する研究。平田は出土資料の尺読や書的検討の成果を報告。12世紀の仮名文字研究は王朝古筆がその中心的対象であり、本研究は仮名が地方へと敷衍していった様を伺う貴重な基礎研究の一つとなる。 ＊学術論文11は、吉田修（2015）墨書土器・折敷にみる散らし書

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				き-柳之御所遺蹟出土文字資料の調査報告を中心として-，書道学論集13，で引用された。
12.文字造形の感性評価２：左右の払いに関する美的印象（査読付）	共	2013年3月	全国大学書写書道教育学会 書写書道教育研究 第27巻	p50-p57。 平田光彦、阿久津洋巳。 書教育、書学に関する研究。書教育の範書となる整斉な楷書では、左右の払いを他の横画や部分より長く強調する構成が採られることが多い。指導の観点である払いを強調する構成の美的な説明根拠を〈学術論文６>で構成した尺度により多元的に分析した。払いが装飾的な美、および視覚を通した身体運動の想起・共感の役割を兼備することを結果から推察した。実験、分析、執筆が平田、助言が阿久津。
13.平泉出土文字資料の再検討 その１	共	2012年3月	岩手県教育委員会 平泉文化研究年報 第12巻	p17-p24。 岡陽一郎（代表）、阿部勝則、小岩弘明、時田里志、七海雅人、平田光彦（五十音順）。 書道史に関する研究。文献資料でない文字資料は廃棄を前提としており、日常的な内容が推察されるため、平泉出土の文字資料群は文献資料を補う貴重な遺品である。平田は従来の尺読の検討、および未読資料の尺読と書的検討を担当。 ＊学術論文12は、前掲吉田（2015）で引用された。
14.「漢字仮名交じりの書」の指導研究 -書における言文一致のアプローチ-	単	2008年12月1日	日本書学研究会 月刊書道専門誌書の美 特別号-書写書道教育-	p1-p18。 書教育、書学に関する研究。 高等学校芸術科書道では漢字仮名交じりの書の指導や小中学校書写との接続連携が課題とされてきた。本研究は小中学校の書写学習や日常の言語表記活動の蓄積が書表現へと昇華するモデルを教育実践とともに示した。「卒意」と「言文一致」をキーワードに、ガントナーや井島勉らの美学的考察を理論的背景に据えた。
15.芸術教科における合科教育の実践研究-書道・音楽選択生徒による共同作品制作を中心として	単	2008年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌書の美 特別号-書写書道教育-	p19-p32。 書教育、書学に関する研究。 総合芸術表現の制作によって感性を広げる傍ら、言語活動や表現と鑑賞の有機的連関などを企図した課題解決学習、芸術と諸芸術の関係、マルチメディア・アートと教育について考察した。合科・総合学習の典型的過程は大正自由教育・新教育を参照した。〈その他・教育実践論文1〉の実践をもとにした研究考察を含む。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.講演「書写書道教育の実践と研究」	単	2023年11月18日	北海道教育大学旭川校　第38回　国語国文学会研究発表大会	第38回 北海道教育大学旭川校 国語国文学会研究大会で講演をつとめた。開学100周年記念となる国語国文学会であり、感染症対策以来、４年ぶりとなる対面での学会開催とのことであった。国語科書写における手書き文字教育の内容について、書道との関連から講演し、その後の質疑や懇親会で、参加の先生方から新鮮な内容で、書写の見方が変わった、国語科での創作の授業にも取り入れたい、などの感想を多くいただいた。
２．学会発表				
1.書写書道教育の実践と研究（講演）	単	2018年6月23日	武庫川国文学会 於：武庫川女子大学	書教育に関する講演。高等学校での実践研究、大学での書写教育に関する理論研究について講和した。
2.右払いやはねから感受される視覚的効果	単	2014年10月	全国大学書写書道教育学会 第29回（埼玉大会） 於：埼玉大学	発表の内容は、「その他5．学会抄録（研究発表要旨）」に記した。
3.文字造形の感性評価：左右の払いに関する美的印象	共	2012年10月	全国大学書写書道教育学会 第27回（京都大会） 於：京都教育大学	発表者：平田光彦、共同研究者：阿久津洋巳。 発表の内容は、「その他5．学会抄録（研究発表要旨）」に記した。
4.書と書教育の可能性（講演）	単	2009年7月	岩手大学語文学会 第33回大会 於：岩手大学	書学・書教育に関する講演。左記テーマについて、文学、視覚芸術、音楽、身体表現など、書が周辺の様々な領域と相関することを中心に述べた。
5.書と音楽の融合 -音楽選択生徒との共同	単	2004年10月	第29回 全日本高等学校書道教育研究	発表の内容は、「その他5．教育実践報告論文」にまとめられた。単元学習としての発表を意図し、同研究大会では初のビデオによる授

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
作品制作-（実践発表・公開授業）			会（京都大会） 於：京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」	業公開を行なった。
３．総説				
1.大字仮名・中字仮名について	単	2022年9月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第246号	p0-p1。 書道史に関する創設。大字仮名と中字仮名に関する歴史的経緯について、「夜鶴庭訓抄」「入木抄」「夜鶴書札抄」「右筆条々」「心底抄」などの書論、および近衛信尹や本阿弥光悦の書を通覧しながら論じた。
2.散らし書きについて-大字仮名・中字仮名-	単	2016年7月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第172号	p3-p4。 書道史に関する総説。散らし書きの歴史的経緯について、「源氏物語」「葦手書考」「右筆条々」「麒麟抄」「言継卿記」「今川了俊書札禮」等の文献を辿りながら解説した。また大字仮名について鎌倉中期の「右筆条々」で「於假名大字者見惡者也」と記されていることを指摘しつつ、大字仮名発生をめぐる文化的コンテクストや中字仮名の名品について考察した。中字から大字仮名の表現を結ぶものとして漢字と仮名の調和の問題があることを述べた。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.やっと咲いて白い花だった	単	2025年5月	日本国際博覧会 未来へつなぐ日本の書 ～空・海・時を超えて～ 日本の代表作家展 ―いのち輝く未来を“書”で描く― EXPOメッセ「WASSE」	日本国際博覧会（大阪・関西万博 EXPO 2025）に依頼出品。2025年2月に作品提出済み、5月7～11日に展示予定。 漢字仮名交じり作品。中字。本紙50×17cm。 主催の読売新聞社・日本書芸院より、日本の伝統文化である書を国内外に発信するにあたり、日本を代表する書家としてご出品くださいとの依頼を受けた。 2008年ごろに揮毫し、未発表であった作を額装して出品した。題材は種田山頭火の句で、柔らかいタッチと造形で読みやすく書いた。
2.春の花	単	2025年4月	第79回日本書芸院展 評議員出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。本紙78cm×170cm。 西行『山家集』より二首を揮毫した。比較的やわらかい筆を用いることで、鋭さの中にも、線の温かみや抒情性、渇筆表現の豊かさを晶出しようと試みた。
3.梅の匂ひ	単	2023年4月	第77回日本書芸院展 評議員出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。78cm×170cm。 西行『山家集』より二首を揮毫した。漢字を効果的に配しながら、文字の大小、潤滑、横への広がりを表現した。
4.花の名残	単	2022年9月	第38回 読売書法展 理事出品 京都市勧業館	仮名作品。大字。78cm×170cm。 西行『山家集』より二首を揮毫した。漢字を仮名に溶け込ませること、線のアングルの組み合わせに留意した。
5.春霞	単	2022年4月	第76回日本書芸院展 評議員出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。本紙53cm×225cm。古今和歌集より春の歌を２首揮毫した。横長の紙面に起伏や変化を描くため、前半は流れを、後半は単体による響きを表現した。
6.橘	単	2022年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 特別号掲載	仮名作品。大字。本紙35cm×135cm。令和四年度教師進級試験のための学習資料として、中務集の書風を基にした半切作品を揮毫した。古筆の文字と流れに忠実な倣書作品とした。
7.西宮市・スポーケン市姉妹都市提携60周年祝賀パフォーマンス	共	2022年1月～現在	西宮市広報番組「フロムにしのみや」、西宮市公式YouTube	西宮市広報課の依頼により、西宮市・スポーケン市姉妹都市提携60周年を祝うパフォーマンス作品を発表し、市の広報番組および公式YouTubeにおいて配信された。平田は作品の企画立案、構成、演出（手本作成、実技指導を含む）を担当し、書道ゼミ、書道部、箏曲部の学生がパフォーマンスした。万葉歌、仮名、散らし書き、日本庭園、ストリートダンスなどを盛り込んで、日本文化や文化交流を表象した。映像にはドローンの空撮も使用、ストリートダンスのポージング考案には世界的に活躍するダンサーであるSAWADA氏をコーディネートした。
8.霞の衣	単	2022年1月	第21回 一先会展 兵庫県立美術館別館	仮名作品。大字。本紙84cm×225cm。古今和歌集より霞を詠んだ春の歌二首を揮毫した。字間の広狭、文字造形の大らかさ、漢字的な強さを含みながら、縦への流れを表現した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
			原田の森ギャラリー	
9.春霞立つ	単	2021年10月	創立二十周年記念一先会選抜書展 東京銀座画廊	仮名作品。大字。本紙70cm×169cm。万葉集846番と1862番の二首を揮毫した。連綿を少なくして、単体の造形による漢字的な響きをもった仮名表現を目指した。
10.玉かけし	単	2021年9月	第37回 読売書法展 理事出品 京都市勧業会館	仮名作品。大字。本紙70cm×169cm。西行の山家集より二首を題材とした。平明でいて変化のある字形となるように造形を工夫した。
11.依頼揮毫 言の葉	単	2021年7月	武庫川女子大学日本語日本文学科・短期大学部日本語文化学科オープンキャンパス	漢字仮名交じり作品。本紙35cm×100cm。武庫川女子大学日本語日本文学科・短期大学部日本語文化学科のオープンキャンパスにおいて参加者に贈り物として渡す手拭い用に揮毫デザインした。その後、原稿を額装し同学科に寄贈した。
12.桃	単	2021年5月	第49回 日本の書展 招待出品 （作品受理・主催者より記録写真配付）	仮名作品。大字。本紙35cm×135cm。関戸本古今集と香紙切を基にして、万葉集1889番の歌を揮毫した。素直な造形と線表現を心がけた。
13.雪と梅	単	2021年4月	第75回日本書芸院展 評議員出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。本紙70cm×169cm。万葉集より梅を詠んだ和歌二首を題材とした。広い紙面に大らかさを表現しようと試みた。
14.範例（手本等）執筆 中字仮名部参考作品 関戸本古今集を基に	単	2021年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第228号	p18 - p19。 仮名書法の学習材。一般向けの参考書例。古典からの展開例として関戸本古今集を基にした中字仮名を依頼された。半切横に万葉集1889番の歌を揮毫した。
15.範例（手本等）執筆 中字仮名部参考作品 関戸本古今集を基に	単	2021年2月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第227号	P18 - p19。 仮名書法の学習材。一般向けの参考書例。古典からの展開例として関戸本古今集を基にした中字仮名を依頼された。半切横に万葉集2970番の歌を揮毫した。
16.桃花	単	2021年1月	第20回 一先会展 兵庫県立美術館別館 原田の森ギャラリー	仮名作品。大字。本紙84cm×225cm。万葉集より桃の歌を２首。万葉集より桃を詠んだ和歌二首を書した。王羲之の草書古典を骨子に据えて、漢字と仮名の中間的な表現を目指して表現した。
17.梅の花	単	2020年11月 ~2021年1月	改組 新 第７回日展 入選 国立新美術館、京都市勧業会館	仮名作品。大字。本紙70cm×169cm。万葉集より梅の花を詠んだ二首を書した。中央部の盛り上がりに気をつけた。下部での安土桃山期の書状を参照して変化を試みた。
18.梅と雪	単	2020年9月	“万葉歌を楽しむ”書展 さんちかホール	仮名作品。中字。本紙53cm×53cm。万葉集より梅を詠んだ和歌一首を書した。墨の潤渇や文字の大小に配意しつつ、大胆な表現を試みた。
19.はかなくて	単	2020年5月	第48回日本の書展 招待出品 （作品受理・主催者より記録写真配付）	仮名作品。大字。本紙35cm×135cm。 香紙切を基調として、潤滑の変化、特に渇筆の澄んだ味わいが表現されるよう心がけた。
20.白雪	単	2020年4月	第74回日本書芸院展 評議員出品 （図録掲載）	仮名作品。大字。本紙70cm×169cm。万葉集より梅を詠んだ和歌一首を題材として、広い紙面に大らかさを表現しようと試みた。
21.フィン・ユールの言葉 b	単	2020年2月	武庫川女子大学書道研究室卒業制作展（賛助出品） 西宮市民ギャラ	北欧の著名なデザイナーであるフィンユールの言葉を英語と和訳を上下に配するレイアウトで書した。2018年にクラブエイトスタジオ盛岡の依頼で揮毫したものから料紙の配色を変えた１点。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
			リー	
22.梅花	単	2020年1月	第19回 一先会展 兵庫県立美術館別館 原田の森ギャラリー	仮名作品。大字。本紙84㎝×225㎝。万葉集より梅の歌を２首。スケールの大きさと構成上の動勢が表現されるように、大小潤渇と散らし書きに工夫を凝らした。
23.種田山頭火の句	単	2020年1月	第55回奈良教育大学書道展（賛助出品） 奈良県文化会館	漢字仮名交じり作品。中字。本紙54㎝×54㎝。種田山頭火の句「久しぶりに掃く垣根の花が咲いてゐる」を散らし書きにして書した。
24.山ざくら	単	2019年11月 2020年１月	改組 新 第６回日展 入選 国立新美術館、京都市勧業会館	仮名作品。大字。本紙53㎝×223㎝。新古今和歌集より春の歌２首。中心の山桜の周辺あたりを山場としつつ、爽やかさや格調を意識した。
25.範例（手本等）執筆 中字仮名部参考作品 一条摂政集を基に	単	2019年11月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第212号	1/2項。 仮名書法の学習材。一般向けの参考書例。古典からの展開例として一条摂政集を基にした中字仮名を依頼された。半切横に新古今和歌集１首（101番）を揮毫した。
26.範例（手本等）執筆 中字仮名部参考作品 一条摂政集を基に	単	2019年10月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第211号	1/2項。 仮名書法の学習材。一般向けの参考書例。古典からの展開例として一条摂政集を基にした中字仮名を依頼された。半切横に新古今和歌集１首（107番）を揮毫した。
27.春霞	単	2019年9月	第37回 読売書法展 理事出品 京都市勧業会館	仮名作品。大字。本紙53㎝×223㎝。古今和歌集より春の歌２首。中心で単体の草書や草仮名を多用することで、流れを止める効果をねらった。
28.同じ身の	単	2019年5月	第47回 日本の書展 マイドームおおさか	仮名作品。大字。本紙35㎝×135㎝。西行、山家集より春の歌１首。連綿を少なく単体を基調として、また老灰紙を用いることで、淡々とした味わいを表現することをねらいとした。
29.冬の音	単	2019年4月	第73回日本書芸院展 評議員出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。本紙84㎝×225㎝。西行、山家集より冬の歌２首。大らかな字形と緩めの筆触で、温かみのある表現になるよう配意した。
30.初雪	単	2019年1月	第18回 一先会展 兵庫県立美術館別館 原田の森ギャラリー	仮名作品。大字。本紙84㎝×225㎝。西行、山家集より冬の歌を２首。老灰紙と墨色との兼ね合いに気を配るため、軽く柔らかいタッチを基調としながら速度の調節による渇筆を適宜織り交ぜた。
31.紅葉	単	2018年10月 ～2019年1月	改組 新 第５回日展 入選 国立新美術館、京都市勧業会館	仮名作品。大字。本紙53㎝×223㎝。古今和歌集より秋の歌２首。強く深い線の響きと造形の安定感を重視した。
32.範例（手本等）執筆 中字仮名部参考作品 香紙切を基に	単	2018年9月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第198号	1/2項。 仮名書法の学習材。一般向けの参考書例。古典からの展開例として香紙切を基にした中字仮名を依頼された。半切横に和歌１首を揮毫した。
33.花風	単	2018年9月	第36回 読売書法展 理事出品 京都市勧業会館	仮名作品。大字。本紙53㎝×223㎝。古今和歌集より春の歌２首。一条摂政集を参照して書した。蔵鋒による深くて強めの線によって、渋みのある表現をねらった。
34.範例（手本等）執筆 中字仮名部参考作品 香紙切を基に	単	2018年8月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第197号	1/2項。 仮名書法の学習材。一般向けの参考書例。古典からの展開例として香紙切を基にした中字仮名を依頼された。半切横に和歌１首を揮毫した。
35.依頼揮毫 フィン・ユールの言葉 a	単	2018年6月	クラブ８スタジオ	盛岡の空間デザイナー、インテリアショップであるクラブ８スタジオからの依頼を受けて揮毫した。北欧の著名なデザイナーであるフィンユールの言葉を英語と和訳を上下に配するレイアウトで書し

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
				た。料紙は２色の揉紙を左右に配して、継色紙の空間がそれとなく想起されるようにした。温故知新を表現するねらいも託している。店内に展示されていると伺った。
36.月影	単	2018年5月	第46回 日本の書展 招待出品 マイドームおおさか	仮名作品。大字。本紙135cm×35cm。西行の山家集より秋の歌を１首。奇を衒わずに、素直な表現を試みた。
37.月宿る	単	2018年4月	第72回日本書芸院展 評議員出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。本紙53cm×223cm。西行の山家集より秋の歌を２首。縦の流れを緩めることで悠揚とした雰囲気を表出したいと考えた。
38.散花	単	2018年1月	第17回 一先会展 兵庫県立美術館	仮名作品。大字。本紙53cm×223cm。西行の山家集より春の歌を２首。ゆったりと落ち着いた表現になるように、連綿を少なくして淡々と書き進めた。
39.雪	単	2017年10月 ～2018年1月	改組 新 第４回日展 入選 国立新美術館、京都市美術館	仮名作品。大字。本紙53cm×223cm。古今和歌集より２首。一条摂政集を参考に書した。中盤で文字をより大きく表現することで、作品の起伏がつくように試みた。
40.風	単	2017年10月 ～2017年11月	創立15周年 一先会 選抜書展 東京銀座画廊美術館	仮名作品。中字。本紙38cm×100cm。古今和歌集より２首。関東で制作された華やかな料紙に、細身の線で素直な表現を試みた。
41.かすみ	単	2017年10月	第34回 読売書法展 理事出品 山形県立美術館	仮名作品。大字。本紙53cm×223cm。古今和歌集より２首。前半部分にゆるやかな散らし書きを、後半部分に行書きを用いた。香紙切、一条摂政集、王羲之、米？などの表現を念頭におき、鋭さや強さと柔らかさや優しさとの調和をはかった。
42.そら b	単	2017年4月	第71回日本書芸院展 評議員出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。その他４の５（作品）と同じ歌を同形式に書した。前作で「幾」字の扱いに課題を残したと感じていたことから「幾」字および冒頭の動きなどを抑制した表現に再挑戦した。
43.雪梅	単	2017年3月	第16回 一先会展 兵庫県立美術館	仮名作品。大字。本紙53cm×223cm。万葉集より２首。前半部分で寸松庵色紙を念頭においたゆるやかな散らし書きを用いた。潤渇の処理によって気字の大きな行書き表現である後半部との調和を試みた。平明さと冴え、柔らかさと強さ等を同居させたいと考えた。
44.依頼揮毫 亀岡祭山鉾連合会 「鍬山鉾」教本題字	単	2017年2月	亀岡祭山鉾連合会 鍬山鉾（教本）	左記の題字（４種）を揮毫した。
45.帰雁	単	2016年10月 ～2017年１月	改組 新 第３回日展 入選 国立新美術館、京都市美術館	仮名作品。大字。本紙53cm×223cm。古今和歌集より２首を書した。王羲之書法を念頭におきながら、一条摂政集と香紙切により仮名の流れを組み立てた。大字仮名では漢字と仮名の融和を常に念頭においている。本作もその一点である。
46.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2016年10月 ～2016年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第175-177号	各1/2項。 漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。初唐三大家の書法を基調として「心織筆耕」「千慮無惑」「世泰時豊」の３点を揮毫した。 ＊以下、「範例［手本等］執筆」の高校生向け漢字課題は、すべて同じ意図で揮毫した。
47.そら a	単	2016年10月	第33回 読売書法展 理事出品 山形県立美術館	仮名作品。大字。本紙78cm×170cm。古今和歌集より２首を書した。散らし書きによる叙情性や仮名の優美な流れを表現しつつも、作品の主眼となる部分では漢字的な用筆とスケールの大きさを表出しようと試みた。
48.片山清水（石川啄木）の 歌を	単	2016年9月	全国大学書道学会 会員書作展 岩手大学図書館アザリアギャラリー	仮名、漢字仮名交じり作品。中字。本紙68cm×35cm。片山清水（石川啄木の北海道時代の変名）の歌を１首書した。仮名作品であるが変体仮名や草書を殆ど使用せず、平明な平仮名と行書で書した漢字仮名交じり作品でもある。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
49.範例・手本等執筆中字仮名部参考作品 香紙切を基に	単	2016年8月～2016年9月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第173-174号	各1/2項。 仮名書法の学習材。一般向けの参考書例。古典からの展開例として香紙切を基にした中字仮名を依頼された。半切横に和歌１首を２点（２ヶ月分）揮毫した。
50.ゆめ	単	2016年6月	第44回 日本の書展 招待出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。本紙68㎝×70㎝。古今和歌集より小野小町の歌を１首書した。比較的狭い紙面であったが、敢えて締めるポイントを作らず、大らかな表現につとめた。
51.夜の衣	単	2016年4月	第70回日本書芸院展 評議員出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。本紙90㎝×230㎝。古今和歌集より２首を書した。一条摂政集を基調に流れを組み立てた。切断と中心移動などによって視線の流れに変化を与えようと試みた。
52.雪と梅	単	2016年3月	第15回 一先会展 兵庫県立美術館	仮名作品。大字。本紙90㎝×180㎝。万葉集より２首。前半は中字的に仮名の流れを、後半は漢字的な響きを取り入れようとした。芸術新聞社刊行「墨」誌創刊40周年記念誌上企画「U50新世代の書家たち」にて筆者と本作品が紹介された。
53.羈旅	単	2015年10月～2016年１月	改組 新 第２回日展 入選 国立新美術館、京都市美術館	仮名作品。大字。本紙78㎝×170㎝。万葉集より柿本人麻呂の歌を２首書した。本作品はまだ試行の段階であるが、いわゆる見せ場での造形の取り方において、従来と作品作りの方法を若干変えていくよう試みた。
54.なつ	単	2015年10月	第32回 読売書法展 理事出品 山形県立美術館	仮名作品。中字。本紙78㎝×170㎝。百人一首より３首を書した。小字的な流れの１首目、脚部に見せ場を持ち込んだ２首目、渇筆を主体に清潔感を表出しようとした３首目を１枚の紙面上で調和させようと企図した。
55.範例・手本等執筆高校漢字部課題	単	2015年7月～2015年9月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第160-162号	各1/2項。 漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「能者多労」「虚而委蛇」「聴必順聞」の３点を揮毫した。
56.和色	単	2015年6月	第43回 日本の書展 招待出品 大阪国際会議場	仮名作品。小字。本紙24㎝×18㎝×5葉。京都の柔和な色合いの料紙５枚に和歌を１首ずつ書した。散らしの変化により、起承転結を構成した。
57.種田山頭火の句を	単	2015年4月	表装展 招待出品 リーガロイヤルホテル大阪 ＊第５４回奈良教育大学書道展（賛助出品）奈良県文化会館 ＊岩手大学書展（賛助出品）岩手県民会館	漢字仮名交じり作品。中字。本紙27㎝×35㎝。これまでの魁星作家から選抜された書家による展覧会で東洋額装株式会社による企画小品展。山頭火「散るは柿の葉咲くは茶の花ざかり」を書した。 米？、王羲之を基調としつつ和様と唐様の中間的な雰囲気をねらった。 なお同作は、奈良教育大学書道展および岩手大学書展にも賛助出品した。
58.春秋	単	2015年4月	第69回日本書芸院展　魁星作家展 魁星作家選抜出品 大阪国際会議場	漢字仮名交じり作品。大字。本紙180㎝×90㎝×２枚。その他４の13，14（作品）と同様、魁星作家展出品作３点のうちの１点。姿と用筆の自然さを以て日本語の風趣を大切にしたいと考えた。行草では、羲之、米？、王鐸、傅山などを基調とした。
59.春花	単	2015年4月	第69回日本書芸院展　魁星作家展 魁星作家選抜出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。本紙135㎝×280㎝。その他４の13，15（作品）と同様、魁星作家展出品作３点のうちの１点。３点のうちの１点。漢字の造形と用筆をもって厚みのある大字仮名表現に務めた。清潔な白の響きと堂々とした書きぶりを目指した。
60.有心（‘15）	単	2015年4月	第69回日本書芸院展　魁星作家展 魁星作家選抜出品 大阪国際会議場	仮名作品。小字。本紙24㎝×18㎝×15葉。将来を担う魁星作家に選抜された。オーディションにより10名が選出され、一人８mの壁面に大作数点を展示する企画。本作はその出品作３点のうちの１点。高野切第一種・三種、関戸本古今集、三色紙、一条摂政集、香紙切、曼殊院本古今集など、これまでの学書を基調として、格調と個性の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
				表出につとめた。なお2011年発表の「有心'11」は別の作品。
61.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2015年1月～2015年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第154-156号	各1/2項。漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「森羅万象」「手舞足蹈」「雄材盛烈」の３点を揮毫した。
62.枯寂	単	2015年1月	第14回 一先会展 兵庫県立美術館	仮名作品。大字。本紙180㎝×90㎝×２枚。百人一首より２首を書した。老灰紙にやや淡墨を使用した。また広い紙面に余白を大きめにとることで、散らしの枯淡な雰囲気を表出しようと試みた。
63.梅の花	単	2014年10月～2015年1月	改組 新 第１回日展 入選 国立新美術館、京都市美術館	仮名作品。大字、本紙53㎝×223㎝。万葉集より２首を書した。横長で長尺の書面に展開する場合、視線のポイントを幾つか設定し、起承転結の起伏をつけることが作品効果を高める。これを勘案し、終末部分に小さな盛り上がりをつけた。
64.清音	単	2014年10月	第31回 読売書法展 理事出品 山形県立美術館	仮名作品。大字、本紙78㎝×170㎝。万葉集より２首を書した。一条摂政集の文字を中心に集字し、倣書から創作への展開をおこなった。漢字や変体仮名の部分で、王羲之、米？、王鐸の文字も参照した。こうした傾向での書作では、個性、品格、普遍性がでるよう願っている。
65.四季小景	単	2014年6月	第42回 日本の書展 招待出品 大阪国際会議場	仮名作品。細字、本紙24㎝×18㎝×５葉。万葉歌より四季の歌を５首書した。一枚ずつ独立した散らしを構成しつつ、隣り合う紙面との関係から生まれる散らし、５枚全体を通しての展開を兼備させるように配意した。料紙の色彩も吟味した。
66.依頼揮毫 岩手大学教員養成支援センター ロゴ	単	2014年5月	岩手大学	左記のロゴが看板としてプレートに加工彫琢され、教育学部総合研究棟入り口に設置された。
67.夏秋山図	単	2014年4月	第68回 日本書芸院展 史邑賞 大阪市立美術館	仮名作品。大字、本紙78㎝×170㎝。仮名と漢字の融和をテーマに据えた作品。終末部での用筆や運筆では、羲之の双鉤填墨にみられる艶をイメージして筆を運んだ。
68.光彩	単	2014年1月	第13回 一先会展 兵庫県立美術館	仮名作品。細字、本紙24㎝×18㎝×16葉。万葉歌より四季の歌を16首書した。一条摂政集を基調としつつ、造形と線質の両面から、香紙切の鋭さと寸松庵色紙の大らかさを取り入れようと試みた。料紙の配色にも心を配り、みずみずしさや可愛らしさ、大らかさを日本の色で表現したいと考えた。
69.範例・手本等執筆寿ぎの一葉を 午年の年賀状	共	2013年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第141号	p5。 平田光彦、柴原月穂。 ハガキ一葉に「迎春」の二字を平田が書した。柴原が「十の願いも八つまで」を小書きした。王羲之と米？を基調とした。
70.秋宵	単	2013年10月～2014年1月	第45回 日展 入選 国立新美術館、京都市美術館	仮名作品。大字、本紙78㎝×170㎝。自然な用筆でもって、鋭さと暖かみを含んだ線質を表現したいと考えた。造形や連綿においても奇をてらわず、自然でいて変化のある表現を念頭においている。香紙切を基調としつつ、書格が落ちないように、王羲之や高野切第一種を背景に持つことを意識している。
71.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2013年10月～2013年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第139-141号	各1/2項。漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「風肅氣涼」「清霜染樹」「瓶凍知寒」の３点を揮毫した。
72.連作 色は匂へど	単	2013年10月	イーハトーヴ・バウハウスの実験 展 招待出品 旧石井県令邸	現代表現。老灰紙、友禅紙、マレーシア産装飾紙、墨、メディウム、Ｆ８キャンバス貼。「いろは歌」を３点に書き分けた連作。言葉も表現も意図せず、左手で手すさびに書き出した。２枚目以降も自動筆記的に即興で書し、書きながら意図が形成された。１点目は枯れた表現、２点目は野放図でランダムな線の密集、３点目は冷えさびた澄んだ世界で、３様の悟達を表現しようと狙った。
73.手まり	共	2013年10月	イーハトーヴ・バウハウスの実験 展 招待出品 旧石井県令邸	平田光彦、本村健太。 現代表現。老灰紙、墨、メディウム、アクリルカラー、Ｆ８キャンバス貼。同展覧会では会場の一室を平田が担当し、本村氏とのコラボレーションと平田の新作、旧作を展示した。本作は良寛の和歌を漢字仮名交じりの表現で書した。万葉歌の風趣をおおらかに包んだ独自の良寛調と呼ばれる世界に心を遊ばせた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
74.舞花	共	2013年10月	イーハトーヴ・バウハウスの実験 展 招待出品 旧石井県令邸	平田光彦、本村健太。 現代表現。老灰紙、コピー、墨、メディウム、アクリルカラー、F８キャンバス貼。「舞」「花」の２字を行書と草書で書した。表現は王羲之をふまえた正統を意識した。本展出品のうちコラボレーションは全て、書表現では奇をてらわず、本村氏が手を加える段階でギャップを生む手法を採ることとした。
75.花香る	共	2013年10月	イーハトーヴ・バウハウスの実験 展 招待出品 旧石井県令邸	平田光彦、本村健太。 現代表現。友禅紙、墨、メディウム、F８キャンバス貼。百人一首を伝統的な仮名表現で書した。その他４の24（作品）と本作で本村氏は書された本紙を手で卒意に裂いた。それは本村氏の意図とは図らずも西本願寺三十六人家集等にみられる一部の料紙を想起させる。日本人の美意識ないし無意識下にある伝統との繋がりが指摘できる点で興味深い。
76.虹	共	2013年10月	イーハトーヴ・バウハウスの実験 展 招待出品 旧石井県令邸	平田光彦、本村健太。 現代表現。友禅紙、墨、メディウム、F８キャンバス貼。バウハウス研究の俊秀、本村健太氏の企画展に招待されたもの。マルチメディア・アーティストでもある氏とのコラボレーション作品４点の内の１つ。銀色の友禅紙に「雨があがって 遠く晴れた空に 夢の虹がかかるよ」と書いた。言葉の想起と同時に筆を動かした。被災地の方々を心に思った。
77.春の花	単	2013年8月， 2013年10月	第30回 読売書法展 理事・審査員出品 国立新美術館，山形県立美術館	仮名作品。大字、本紙78㎝×70㎝。一条摂政集を基調として制作した。細字がそのまま大字仮名に展開されるような表現を目指した。一条摂政集の質朴な線質と求心的な連綿を念頭においた。
78.すみれ	単	2013年6月	第41回 日本の書展 招待出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字、本紙70㎝×70㎝。針切れと寸松庵色紙の書風を基調として制作した。左右移行、線質の柔らかさと鋭さ、歯切れ良さと流麗な流れ、変化とまとまりのある空間といった相反する要素を調和させようとした。
79.依頼揮毫 第62回 東北中国学会講演・研究発表題目	単	2013年5月	第62回 東北中国学会（会場：岩手大学）	左記学会での講演、発表の演題、題目等を揮毫した。
80.依頼揮毫 日本体育学会第65回大会 学会大会ロゴ	単	2013年5月	日本体育学会HP 等	左記のロゴが当該学会大会のHP等に使用された。
81.万葉集巻第十より二首	単	2013年4月	第67回 日本書芸院展 史邑賞 大阪市立美術館	仮名作品。大字、本紙78㎝×170㎝。香紙切を基調とした仮名文字で作品を組み立てつつ、中心部では漢字と放ち書によるスケールの大きさを求めた。
82.はるひ	単	2013年1月	第12回 一先会展 兵庫県立美術館	和様作品。大字、本紙90㎝×210㎝。三蹟の嚆矢である小野道風の書を基調とした。特に墨量、和様漢字、文字の大小において玉泉帖の書風を参照した。
83.範例・手本等執筆 心と心を繋ぐ巳年の年賀状	単	2012年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第129号	p3。 二王を骨格に墨跡の風を加味して「吉兆」と揮毫した。
84.万葉集　春	単	2012年10月 ～2013年1月	第44回 日展 入選 国立新美術館、京都市美術館	仮名作品。大字、本紙78㎝×170㎝。文字造形は、シャープな字形の中に大らかな雰囲気をだす目的で、香紙切と寸松庵色紙を基調とした。定石と違い、前半で流れを造り、中心部で単体の響きを狙う展開を試みた。
85.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2012年10月 ～2012年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第127-129号	各1/2項。 漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「良夜遙長」「寂然不動」「積善成徳」の３点を揮毫した。
86.万葉のうた	単	2012年10月	第29回 読売書法展 理事出品 山形県立美術館	仮名作品。大字、本紙78㎝×170㎝。香紙切と一条摂政集の書風を基調とした。和歌二首を大らかに表現することを心がけた。流れと密度、線質の鋭さに配意して、造形と用筆を工夫した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
87.天の海	単	2012年6月	第40回 日本の書展 招待出品 大阪国際会議場	和様作品。大字、本紙100㎝×70㎝。万葉集一首を原文で書した。佐理の表現を根底におき、行草書のみで表現した。漢字と仮名の中間的な書風・書体を目指した。短鋒の丸みのある線で筆先の細やかな扱いに意を払い、切れ味も同居させようとした。
88.依頼揮毫 臨済宗妙心寺派 如城寺 白隠禅師座禅和讃	単	2012年5月	臨済宗妙心寺派 如城寺	本山からの講演会に際して使用する四曲屏風として依頼された。
89.依頼揮毫 原隆利写真展「1300年 時空を超えて」個展タイトル・作品題名	単	2012年4月	島根県立美術館	左記の写真展の展覧会タイトル、および各作品の題名を揮毫し、個展会場でキャプションとして掲示された。原隆利氏は平凡社「第25回太陽賞」の最終ノミネート作家。
90.秋の夕暮れ	単	2012年4月	第66回 日本書芸院展 一科審査会員出品 大阪市立美術館	仮名作品。大字、本紙53㎝×225㎝。一条摂政集と寸松庵色紙の書風を念頭において書作した。中央部に比較的大きな文字を配置して、作品のスケールを大きくすることを考えた。
91.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2012年1月～2012年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第118-120号	各1/2項。 漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「寡交多親」「習與性成」「養之如春」の３点を揮毫した。
92.百人一首より	単	2012年1月	第11回 一先会展 兵庫県立美術館	仮名作品。中字、本紙53㎝×225㎝。一条摂政集の書風を基調としつつ、懸腕法による大らかな運筆を心がけた。上下二段での展開における、起伏の組み合わせに配意した。
93.範例・手本等執筆 辰年の年賀状	単	2011年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第117号	p5。 水彩絵の具を使用して辰の甲骨文をデザインした。たらし込みの技法を用いた。
94.梅の花	単	2011年10月，2012年1月	創立10周年 一先会 俊秀作家展 東京銀座画廊美術館，兵庫県立美術館	漢字仮名交じり作品。本紙135㎝×106㎝。日本書学研究会の俊秀作家展に出品した３点中の１点。二曲屏風に和様、特に佐理の書風を念頭において、万葉歌一首を書した。散らし書きと字間の広狭により紙面効果を考えた。
95.鎮魂歌	単	2011年10月，2012年1月	創立10周年 一先会 俊秀作家展 東京銀座画廊美術館，兵庫県立美術館	和様作品。大字、本紙65㎝×170㎝。日本書学研究会の俊秀作家展に出品した３点中の１点。万葉集から鎮魂歌を二首選文した。草仮名、草書による表現で、漢字と仮名の中間的な書風を目指した。また終末部での行の絡まりに配意した。短鋒禿筆により雅味のある線質を志した。
96.有心（‘11）	単	2011年10月，2012年1月	創立10周年 一先会 俊秀作家展 東京銀座画廊美術館，兵庫県立美術館	仮名作品。細字。本紙24㎝×18㎝×10枚。日本書学研究会の企画展に出品した３点中の１点。俊秀作家に選ばれた10名が１人8mの壁面を与えられた。香紙切と一条摂政集を基調とした。散らしと料紙に意を払い、新古今和歌集の耽美的な世界を表出しようと試みた。
97.風花	単	2011年10月～2012年1月	第43回 日展 入選 国立新美術館、京都市美術館	仮名作品。大字、本紙53㎝×225㎝。香紙切を基調とした流麗美を主眼としつつ、連綿と切断の組合せによって横展開の紙面における大らかな広がりを表出しようと心がけた。
98.きみがため	単	2011年10月	第28回 読売書法展 理事出品 山形県立美術館	仮名作品。小字、本紙24㎝×18㎝×12葉。帖面に一条摂政集の書風を基調としつつ、高野切や寸松庵色紙の大らかさを表現に盛り込んだ。平明さと個性の共存をテーマにして、特に連綿に細やかな配慮をした。
99.平泉・再生・巡愛歌	単	2011年9月～2012年1月	平泉国際交流展 岩手大学附属図書館アザリアギャラリー、平泉文化センター、水沢公民	現代表現。友禅紙、墨。本紙63㎝×46㎝。アクリルボックス装。平泉国際交流展へ出品した連作のうちの１点。銀色の友禅紙に墨線による抽象表現と言葉を書した。津波のイメージを仮託した墨線と「生まれ変わってもあなたと一緒に」という言葉を描いた。墨線も言葉も、被災された方に心を重ねて、紙に向かうと同時に想起され

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
			館、北上ツインモールプラザ、ホテル千秋閣	た思いを筆にたくした。
100.平泉・鎮魂・万葉歌	単	2011年9月～2012年1月	平泉国際交流展 岩手大学附属図書館アザリアギャラリー、平泉文化センター、水沢公民館、北上ツインモールプラザ、ホテル千秋閣	現代表現。友禅紙、洋金紙、鳥の子、墨、本紙15cm×90cm、アクリルボックス装。平泉国際交流展へ出品した連作のうちの１点。抽象的形象と王朝仮名表現の組合せ。水死説のある柿本人麻呂の死に際しての意を擬え詠んだという丹比真人の万葉歌を選文した。私がここに眠っていることをだれか妻に伝えてくれないかという歌意の歌であった。
101.平泉・浄土・雪月花	単	2011年9月～2012年1月	平泉国際交流展 岩手大学附属図書館アザリアギャラリー、平泉文化センター、水沢公民館、北上ツインモールプラザ、ホテル千秋閣	現代表現。洋金紙、墨、岩彩、本紙46cm×63cm、アクリルボックス装。復興がテーマとなった平泉国際交流展へ出品した連作のうちの１点。同展には、現代美術、工芸、彫刻、写真、デザイン、書の分野から国内外の作家が招待された。「黄金」と「美しい自然」を念頭において意匠をたてた。琳派の表現で多用される「たらし込み」の技法で金地の本紙を加工して書した。
102.新古今和歌集	単	2011年6月	第39回 日本の書展 招待出品 大阪国際会議場	仮名作品。小字、本紙36cm×24cm５葉。香紙切の書風を基調とした。散らしの展開と料紙の色を吟味し、歌の世界の表出を心がけた。
103.新古今和歌集より五首	単	2011年3月	岩手大学書道科作品展 賛助出品 岩手県民会館	仮名作品。小字、本紙24cm×18cm×５葉。寸松庵色紙と一条摂政集を参考にした。横へ並べた５枚の散らしの展開に配意した。
104.新古今和歌集	単	2011年2月	第65回 日本書芸院展 大賞 大阪市立美術館	仮名作品。大字、本紙63cm×170cm。香紙切の書風を根底にすえた。虚画を多用して、密度のある部分を作品のポイントにした。シンプルな造形部分との組合せにより全体観が爽やかな印象となるよう心がけた。
105.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2011年1月～2011年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第106-108号	漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「舎短取長」「自我作古」「器宇弘深」の３点を揮毫した。
106.良寛の歌を	単	2011年1月	第10回 一先会展 兵庫県立美術館	和様作品。大字、本紙135cm×210cm。佐理を参考にして、漢字と仮名の中間的な書風・書体となることを目指した。短鋒の禿筆による雅味のある線質をねらった。連綿を多用した草仮名、草書による作品で、接近させた行の絡み合いに意を注いだ。
107.範例・手本等執筆 卯年の年賀状 甲骨文字や金文をつかって	単	2010年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第105号	p2。 コンピューターと篆書を使用して、との依頼を受けて揮毫した。
108.万葉集　春	単	2010年10月	第27回 読売書法展 理事出品 山形県立美術館	和様作品。大字、本紙53cm×225cm。中世の書状類を参考にして、漢字と仮名の中間的な書体で表現した。短鋒の禿筆を使用し、直筆による大きな運腕を心がけた。横長の紙面の中で、起伏ある展開となるように構成に配意した。
109.万葉歌	単	2010年6月	第38回 日本の書展 秀抜選出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字、本紙53cm×170cm。香紙切の造形、流れを根底に据えた。確かな用筆を心がけ、線の切れ味を表出しようとした。
110.万葉歌	単	2010年6月	第９回 岩手一先会かな書展 岩手県民会館	和様作品。大字、本紙63cm×170cm。万葉歌を原文で書いた。草書、草仮名で書して、漢字と仮名の中間的な書体を目指した。羊毛短鋒の禿筆を使用し、大らかさを表現しようと心がけた。
111.新古今和歌集より２首	単	2010年3月	岩手大学書道科作品展 賛助出品 岩手県民会館	仮名作品。小字、本紙24cm×18×２枚。寸松庵色紙と一条摂政集を基調とした。放ち書きの間と連綿の組み合わせ、太細と墨量による奥行きの表出に配意した。
112.種田山頭火の句	単	2010年3月	岩手大学書道科作	漢字仮名交じり作品。本紙135cm×53cm。種田山頭火の句を２行書き

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
			品展 賛助出品 岩手県民会館	の単体で表現した。王羲之や米？の字形を基調とした平明な書風に強い筆触の筆で響きをだそうと試みた。
113.春がすみ	単	2010年2月	第64回 日本書芸院展 大賞 大阪市立美術館	仮名作品。大字、本紙63cm×170cm、額装。新古今和歌集より３首を書した。香紙切の字形と連綿で爽やかな線質をねらった。横展開の中盤における盛り上がりに気を配った。
114.梅散らす	単	2010年1月	第９回 一先会展 兵庫県立美術館	仮名作品。大字、本紙90cm×180cm。香紙切を基調として流麗美を表出しようと試みた。同時に中央では堂々とした横の広がりを出せるように字間を調節した。
115.範例・手本等執筆 新春は美しい言の葉で年賀状	単	2009年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第93号	p9。 英語を使用したクリスマスカードのデザインを依頼され揮毫した。
116.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2009年10月 ～2009年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第91-93号	各1/2項。 漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「萬里寒光」「白雁霜信」「枕書高臥」の３点を揮毫した。
117.新古今和歌集より２首	単	2009年9月	第26回 読売書法展 幹事出品 京都市勧業会館	仮名作品。小字、本紙24cm×18cm×12葉。帖面。使用した揉み紙は命毛の跡が出やすい反面、渇筆の息が短くなり易い特性があった。よって墨量に気をつけた。
118.万葉歌	単	2009年7月	第63回 岩手書道協会展 岩手県民会館	仮名作品。大字。本紙63cm×170cm。老灰紙と弱めの筆圧で雅味を出そうと心がけた。漢字と仮名の中間的書風をねらった。
119.西行の歌を	単	2009年6月	第８回 岩手一先会かな書展 岩手県民会館	仮名作品。小字、本紙24cm×18cm×12葉。帖面。12葉の展開で３種類の料紙を使用し、色の組み合わせにも配意した。直筆による中鋒の線を大切にした。
120.小倉山	単	2009年5月	第37回 日本の書展 秀抜選出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字、本紙135cm×35cm。老灰紙を使用した。蔵鋒による用筆で、暖かみのある線を表現しようと試みた。
121.範例・手本等執筆 はがき・封筒の書き方レッスン	共	2009年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 特別号-はがき・封筒の書き方レッスン-	p19-20，28-31担当。 中島旭堂、内絹江、波多野博風、柴原月穂、平田光彦、加納敬舟。 実用書の学習教材を執筆した。東海地方と九州地方の地名を小筆で書した手本を担当執筆した。
122.万葉集より	単	2009年2月	第63回 日本書芸院展 二科審査会員出品 大阪市立美術館	仮名作品。中字、本紙63cm×170cm。連綿と曲線を多用し、流麗さを強調しようと心がけた。細線を基調とした。
123.万葉歌	単	2009年1月	第８回 一先会展 兵庫県立美術館	和様作品。大字。本紙100cm×210cm。万葉歌二首を原文で書した。羊毛短鋒の禿筆を用いた。漢字と仮名の中間の表現をねらった。和様表現に墨跡の風を盛り込もうと企図して、太めの線で大胆に書いた。
124.範例・手本等執筆 丑年の年賀状	単	2008年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第81号	p8。 京都唐長の唐紙とPhoto Shopを使用して、「寿」の書をあしらった。紙の意匠を生かした。
125.花と見る夢	単	2008年11月，12月	第40回 日展 入選 国立新美術館、京都市美術館	仮名作品。小字、本紙24cm×18cm×12葉。帖面。懸腕法と大らかな散らしにより、伸びやかさを表出しようと試みた。前半では特に上部に放ち書きによる広やかさをねらった。
126.西行歌	単	2008年8月	第25回 読売書法展 幹事出品 京都市勧業会館	仮名作品。小字、本紙24cm×18cm×12葉。帖面。西行の歌を16首、小字による仮名作品としてまとめた。円転する用筆の中で蔵鋒と露鋒を織り交ぜて、鋭さと沈潜を混在させようと試みた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
127.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2008年4月～ 2008年6月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第73-75号	各1/2項。 漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「凌雲之志」「柳緑花紅」「格物致知」の３点を揮毫した。
128.秋の夕暮れ	単	2008年3月	第36回 日本の書展 秀抜選出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字、本紙135cm×35cm。半切縦に和歌１首を書いた。連綿で流れを作りつつ、漢字部分で華やかさを演出した。
129.西行歌	単	2008年2月	第62回 日本書芸院展 二科審査会員出品 大阪市立美術館	仮名作品。大字、本紙60cm×180cm。光悦の書状の雰囲気を仮名に盛り込もうと試みた。和様漢字の単体を取り入れつつ、虚画を多用して流れを強調した。
130.百人一首より	単	2008年1月	第７回 一先会展 兵庫県立美術館	仮名作品。大字。本紙100cm×212cm。二部構成で変化をねらった。前半は漢字の大らかさと強さが出るよう表現した。禿筆により雅味のある線表現となるよう配意した。
131.百人一首より	単	2008年1月	京都書作家協会展 京都大丸	仮名作品。小字。本紙36cm×48cm。百人一首より２首を細字で書した。澄んだ線をねらい、転折でのタッチに工夫を凝らした。白の強い料紙であるため、微妙な墨色のグラデーションを表現するように配慮した。
132.山桜	単	2008年1月	第７回 京都府立亀岡高等学校書道展 賛助出品 ガレリアかめおか	仮名作品。大字、本紙１葉24cm×18cm×12葉。帖面。細線の張りを念頭に、連綿の組み合わせに意匠を凝らせて作品化した。一葉に１首を散らし書きにしたため、行の疎密で空間をもたせるようにした。
133.うぐひす	単	2007年8月	第24回 読売書法展 幹事出品 京都市勧業会館	漢字仮名交じり作品。本紙78cm×180cm。古今集より１首を書作した。王羲之、米？を基調に雄渾な書風をねらった。細やかな用筆で筆先の扱いに神経を配る一方、大きな運筆と筆圧の変化で広がりを持たせた。
134.梅花	単	2007年5月	京都書作家協会展 京都文化博物館	漢字仮名交じり作品。本紙105cm×105cm。老灰紙に万葉歌１首を書した。米？の書風を意識して露鋒を若干取り入れつつも、仮名との調和の接点として蔵鋒を根幹に用いた。漢字書の響きを取り入れるため、連綿を排して太めの線によって表現した。
135.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2007年4月～ 2007年6月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第61-63号	各1/2項。 漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「朝歌夜絃」「長楽無極」「飛雪千里」の３点を揮毫した。
136.万葉集より	単	2007年2月	第61回 日本書芸院展 二科審査会員出品 大阪市立美術館	仮名作品。大字、本紙78cm×180cm。仮名作品の中に漢字単体を交ぜて表現した。流れの華やかさとの朴訥さの共存を試みた。
137.うめ　もも　さくら	単	2007年1月	京都書作家協会展 京都大丸	仮名作品。小字、本紙36cm×48cm。万葉集より和歌３首を小字で書いた。西行の書風を以て、繊細さをねらって書作した。連綿線には抑揚を持たせ、行の起伏を作った。
138.梅花	単	2007年1月	第６回 一先会展 兵庫県立美術館	漢字仮名交じり作品。本紙105cm×105cm。その他４の71（作品）と同じ形式と選文。本作は柔らかく朴訥とした表現をねらった。
139.範例・手本等執筆 亥年の年賀状	単	2006年12月 ＊2018年1月 ＊2018年2月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第57号 ＊第53回奈良教育大学書道展（賛助出品）奈良県文化会館 ＊岩手大学書展（賛助出品）アイーナ	p1。 種田山頭火の句「すなほに咲いて白い花なり」を書した。筆致の充実と平明で個性のある書風を目指した細字。 なお同作は、第53回奈良教育大学書道展（2018年1月）および岩手大学書展（2018年2月）に賛助出品した。
140.万葉集	単	2006年11	第38回 日展	仮名作品。小字、本紙１葉24cm×18cm×12葉。帖面。左右見開きで

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
		月，12月	入選 東京都美術館、京都市美術館	１対の散らしを構成しつつ、６対が起承転結を以て展開されるように工夫した。一条摂政集の流れる様な書風と中鋒による沈潜し円転する用筆を意識して書作した。
141.万葉集	単	2006年8月	第23回 読売書法展 幹事出品 京都市勧業会館	仮名作品。小字、本紙１葉24㎝×18㎝×12葉。帖面。万葉集12首を小字で書いた。西行の連綿技法を駆使しつつ、空間構成に気を配って書作した。
142.範例・手本等執筆 高校漢字部課題	単	2006年4月～2006年6月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第49-51号	各1/2項。 漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「花鳥装春」「天道無親」「不言之教」の３点を揮毫した。
143.紅葉	単	2006年3月	第５回 京都府立亀岡高等学校書道展 賛助出品 ガレリアかめおか	漢字仮名交じり作品。本紙78㎝×180㎝。古今和歌集より２首を左右２枚の老灰紙に配置した。左右が独立していながら関係を持つように配意した。２枚目を山場として構成した。
144.古今和歌集	単	2006年2月	第60回 日本書芸院展 二科審査会員出品 大阪市立美術館	仮名作品。小字、本紙78㎝×180㎝。古今和歌集３首を太めの線の潤筆と筆を開いた渇筆とによる変化で作品効果をねらった。後半部分に作品の山場を設定した。
145.鶯	単	2006年1月	創立５周年記念 一先会選抜書展 東京銀座美術画廊	漢字仮名交じり作品。本紙78㎝×180㎝。古今集１首を大字による漢字的表現で書した。リズムの良さを意図して呼吸を短めに、打楽器的な軽快さを表現した。
146.範例・手本等執筆 新春を祝う戌年の年賀状- 一字、一筆に心をこめて-	単	2005年12月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第45号	p5。 「喜」の一字を書した。やや可愛らしい書風で若い人が書への興味を持てるように意図した。
147.船人	単	2005年8月	第22回 読売書法展 読売新聞社賞 京都市勧業会館	漢字仮名交じり作品。本紙63㎝×169㎝。仮名の柔らかさ、たおやかさに漢字を調和させることを試みた。連綿を極力避けて可読性を確保しながらも、文字の受け方と線の呼吸で流れも演出しようとした。上田敏訳詩集『海潮音』より、シャルル・ボドレエルの詩「信天翁」の冒頭を題材とした。
148.万葉集	単	2005年4月	第59回 日本書芸院展 特別賞 大阪市立美術館	仮名作品。大字、本紙78㎝×180㎝、額装。連綿を多用しつつ、細線の絡まりで奔放な流れを出そうとした。潤筆部分の運筆速度を抑えることで、リズムの大らかさを持たせた。
149.古今和歌集	単	2005年4月	第４回 一先会展 兵庫県立美術館	漢字仮名交じり作品。本紙78㎝×180㎝、額装。古今和歌集より２首を左右２枚の紙面に分けて漢字仮名交じりの書にて作品化した。動きのある漢字の文字造形に平明な平仮名の組み合わせでまとめた。
150.種田山頭火の句を	単	2005年2月	第４回 京都府立亀岡高等学校書道展 賛助出品 ガレリアかめおか	漢字仮名交じり作品。本紙35㎝×53㎝、額装。老灰紙に、宋の米？の書を基調に横形式でまとめた。軽めのタッチと大らかな造形で広がりをねらって表現した。
151.新古今和歌集より	単	2004年11月	第27回 一東書道会全国書道展 一東準大賞 兵庫県民会館	仮名作品。小字、本紙24.5㎝×25㎝×10葉、帖面。一条摂政集の書風を意識して書作した。懸腕を用いた強いタッチで、歯切れの良さを表現しようとした。
152.新古今和歌集より	単	2004年8月	第21回 読売書法展 幹事出品 京都市勧業会館	仮名作品。小字、本紙24㎝×18㎝×12葉。帖面。線の伸びを強調するため墨色に特に気を配った。懸腕法による強さも加味した。
153.新古今和歌集	単	2004年5月	第57回 一東書道会展兵庫県民会館	仮名作品。小字、本紙36㎝×48㎝。生活美術展をテーマに毎春開催される会員全国展に出品。新古今和歌集３首を表現した。命毛の痕跡を残すようにした。
154.万葉集	単	2004年4月	第58回 日本書芸院展 特別賞	仮名作品。小字、本紙78㎝×180㎝。素紙を用いて白黒のコントラストを強調した。滲みによる停滞を避けるため軽いタッチで早い運筆の表現とした。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
155.種田山頭火の句を	単	2004年3月	大阪市立美術館 第３回 京都府立亀岡高等学校書道展 賛助出品 ガレリアかめおか	漢字仮名交じり作品。本紙53㎝×35㎝。老灰紙を用い、縦形式に２行書きで渇筆を多用して変化を加えた。細線で虚画を多用してリズムを演出した。
156.種田山頭火の句を	単	2004年3月	第33回 日本の書展 秀抜選出品 大阪国際会議場	漢字仮名交じり作品。本紙135㎝×53㎝。老灰紙に雅味をねらい単体でまとめた。太めの線と潤筆で暖かみを出そうとした。線は強めであるが厳しくなり過ぎないよう蔵鋒を用いた。
157.奔響	単	2003年11月	第26回 一東書道会全国書道展 兵庫県民会館	仮名作品。小字、本紙24㎝×36㎝×10葉。帖面。一条摂政集の書風と構成に準拠しつつ、紙面をやや横長にすることで奔放な広がりを表出するよう企図した。
158.種田山頭火の句を	単	2003年8月	第20回 読売書法展 幹事出品 京都市勧業会館	漢字仮名交じり作品。本紙180㎝×63㎝。単体であるため文字の受け方に特に気を配った。墨色をやや淡くして柔らかい風合いを出した。
159.種田山頭火の句を	単	2003年5月	第56回 一東書道会展兵庫県民会館	漢字仮名交じり作品。本紙30㎝×15㎝×15㎝。生活美術展をテーマに毎春開催される会員全国展に出品。透明アクリル板を丸めた円筒に、種田山頭火の句を１首書いた老灰紙を張り合わせ、行灯を作成した。
160.万葉集	単	2003年4月	第57回 日本書芸院展 無鑑査出品 大阪市立美術館	仮名作品。小字。78㎝×180㎝。墨の吸収の強い素紙を用いて、運筆の速度を速くし、潤滑の変化を強調した。線が浮薄にならないように、筆先の抵抗を利かせた。
161.種田山頭火の句を	単	2003年3月	第32回 日本の書展 秀抜選出品 大阪国際会議場	漢字仮名交じり作品。大字。本紙135㎝×53㎝。老灰紙に朴訥さをねらって単体を主にまとめた。文字の受け方により流れを表出した。字数が少ないため用筆の変化で空間を作りながら、華美にならないよう運筆の速度を抑えた。
162.雨脚	単	2002年11月	第25回 一東書道会全国書道展 兵庫県知事賞 兵庫県民会館	仮名作品。小字。本紙24㎝×18㎝×12葉。帖面。西行の書法に依拠しながら、比較的短い連綿をもって歯切れの良いリズムをねらった。脚部では直結連綿を多用して右下に文字を畳み込む本阿弥切の技法も用いて紙面を引き締めた。
163.種田山頭火の句を	単	2002年8月	第19回 読売書法展 幹事出品 京都市勧業会館	漢字仮名交じり作品。本紙180㎝×78㎝。種田山頭火の句を大字単体作品としてまとめた。筆圧を強く、筆を開いて、激しい線質を用いたが、端正な造型を意識して格調の維持に努めた。
164.乗風波浪	単	2002年5月	第55回 一東書道会展兵庫県民会館	漢字作品。本紙20㎝×30㎝、扇面。生活美術展をテーマに毎春開催される会員全国展に出品。京扇子に「乗風波浪」の漢字４字を細線による行書で書した。
165.万葉集	単	2002年4月	第56回 日本書芸院展 一科会員出品 大阪市立美術館	仮名作品。小字。本紙78㎝×180㎝。滲みの少ない老灰紙に細線を中心にした流麗美をねらって制作した。線の深みを出すため、筆先を紙に食い込ませつつ流していった。転折の用筆がその鍵となっている。
166.白楊	単	2002年3月	第31回 日本の書展 秀抜選出品 大阪国際会議場	漢字仮名交じり作品。70㎝×70㎝。上田敏訳詩集『海潮音』よりテオドルオオバネルの詩を書いた。間や文字の大小潤滑に変化をつけつつも落ち着いて見えるよう運筆速度を抑えた。
167.はるのうたを	単	2001年11月	第24回 一東書道会全国書道展 兵庫県民会館	仮名作品。小字。本紙24㎝×18㎝×12葉。帖面。新古今和歌集を書した。懸腕法を用いて筆の弾力を強調した強くリズミカルな線をねらった。中鋒の用筆により、力が表に流れないように、線の充実を図った。
168.水無月	単	2001年8月	第18回 読売書法展 幹事出品 京都市勧業会館	漢字仮名交じり作品。本紙78㎝×180㎝。上田敏訳詩集『海潮音』のテオドルストルム詩が持つ柔らかさを表現するため、抑揚の効いた文字造形で表現した。
169.風花雪月	共	2001年5月	第54回 一東書道会展兵庫県民会館	平田光彦、市川博一。 漢字作品。直径30㎝、陶書。生活美術展をテーマに毎春開催される会員全国展に出品。日展作家市川博一氏作陶の清水焼青磁器に「風

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
				花雪月」の句を行書で表現した。円形空間に収まるよう文字造形に丸みをつけた。
170.古今和歌集	単	2001年4月	第55回 日本書芸院展 特選 大阪市立美術館	仮名作品。大字。本紙78㎝×180㎝。古今和歌集３首を大字仮名で表現した。渇筆部分の文字を大きめに、潤筆部分を小さめに配して紙面のアクセントをつけた。
171.秋風	単	2001年3月	第30回 日本の書展 秀抜選出品 大阪国際会議場	漢字仮名交じり作品。本紙53㎝×135㎝。島崎藤村の詩。漢字の筆法を用いつつ細身の線で仮名との調和をはかった。渇筆部ではタッチを軽くしつつ運筆速度をあげ、華やかさを盛込んだ。
172.依頼揮毫 臨済宗妙心寺派 如城寺 檀家名木版	単	2001年2月	臨済宗妙心寺派 如城寺	左記の内容を木版に書し、本堂に掲示された。雁塔聖教序に鄭道昭の書風を加味した細楷。
173.山頭火の句を	単	2000年11月	第23回 一東書道会全国書道展 企画「時の人展」選抜 兵庫県民会館	漢字仮名交じり作品。小字。本紙70㎝×70㎝。『一東』誌企画「時の人」に掲載された12人によるグループ展。老灰紙を使用した。王羲之と米？の書風を基調に、渇筆による雅味を加えて表現した。
174.蹉跌	単	2000年8月	第17回 読売書法展 評議員出品 京都市勧業会館	漢字仮名交じり作品。本紙78㎝×180㎝。仮名の柔らかさと歯切れのよさを表現した。字形は王羲之や米？を根底にした。文字の傾きに微妙な変化をつけることで非連綿による流れの断絶を避け、文字間の繋がりを感じさせるよう配慮した。
175.範例・手本等執筆 高校漢字部参考手本	単	2000年7月～ 2000年12月	一東書道会 書道研究一東 第280-285号	各１項。 漢字書法の学習材。高校生向けの参考書例。「高朗令終」「風光可愛」「能者多勞」「大器晩成」「開心見誠」「至人遺物」の６点を揮毫した。
176.万葉集	単	2000年5月	第53回 一東書道会展兵庫県民会館	仮名作品。小字。本紙48㎝×36㎝、扇面。生活美術展をテーマに毎春開催される会員全国展に出品。京扇子に万葉集１首を、万葉仮名と仮名の２種類の書風で左右に書き分けた。漢字と仮名との調和に気を配った。
177.天つ風	単	2000年3月	第29回 日本の書展 秀抜選出品 大阪国際会議場	仮名作品。大字。本紙70㎝×70㎝。正方形の紙面に和歌３首を書した。後半から連綿を増やしつつ文字を小粒にしていくことで終末感を演出し作品をまとめた。墨量の変化に配意した。
178.新古今和歌集	単	2000年2月	第54回 日本書芸院展 一科会員推薦賞 大阪市立美術館	仮名作品。小字。本紙78㎝×180㎝。細線による流麗美をねらいとして作品化した。滲みの強い紙に潤筆で表現し、運筆を速めて純重さを避けようとした。
179.万葉集	単	1999年11月	第22回 一東書道会全国書道展 兵庫県芸術文化協会賞 兵庫県民会館	仮名作品。小字。本紙24㎝×18㎝×12葉。帖面。西行の書風を以てまとめた。簡素な文字造形の部分で連綿を多用し、複雑な造形となる変体仮名部分で単体の放ち書きを用いることで、作品の変化を加えた。
180.砧	単	1999年11月	第24回 全国高等学校書道教育研究会奈良大会記念教員展 奈良県橿原文化会館	漢字作品。本紙135㎝×35㎝。七言対句を半切に２行にまとめた。行草書による流れの美と、硬めの筆による線の切れ味を求めた。明末清初の王鐸の書風による表現。
181.万葉集	単	1999年8月	第16回 読売書法展 特選 京都市美術館	仮名作品。大字。本紙78㎝×180㎝。万葉集より３首を大字仮名書作品として構成した。起承転結の構成を緩やかに見せつつ、平明な文字造形の美しさをねらった。静かで品のある美を求めた。
182.古今和歌集	単	1999年5月	第52回 一東書道会展兵庫県民会館	仮名作品。中字。本紙36㎝×48㎝。生活美術展をテーマに毎春開催される会員全国展に出品。絹本に中字で古今和歌集２首を作品化した。絹本の滑らかな滲みと線の伸びの効果を強調するため運筆速度を調整した。
183.新古今和歌集	単	1999年2月	第53回 日本書芸院展二科会員推薦賞	仮名作品。中字。本紙78㎝×180㎝。細線を中心に、空間の疎密を主題として制作した。密の部分が煩雑にならないように、曲線の組み

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
				合わせに特に配慮した。
184.新古今和歌集	単	1998年11月	大阪市立美術館 第21回 一東書道会 全国書道展 兵庫県民会館	仮名作品。大字。本紙78㎝×180㎝。西行の蔵鋒による連綿技法を用いて作品化した。素紙による沈潜した線の効果で作品の強さを強調した。
185.新古今和歌集	単	1998年5月	島根県書道教育連盟機関誌『開眼』 創刊500号記念書展 島根県議会議長賞 島根県立博物館	仮名作品。小字、本紙70㎝×70㎝、額装。新古今和歌集を素材に、滲みの少ない加工紙を用いることで渇筆の色の変化をねらった。用筆を凝らして、線質の複雑さを加味した。
186.晶子の歌を	単	1998年3月	第15回 読売書法展 特選 京都市美術館	仮名作品。大字、本紙78㎝×180㎝、額装。与謝野晶子の歌３首を連綿と隣り合う行の関係に配慮し、流れと共に全体の立体感を際立たせるような視覚的な効果を加え構成した。
187.清夜	単	1995年8月	第12回 読売書法展 入選 インテックス大阪	漢字作品。本紙230㎝×53㎝。五言律詩を行草体により表現した。明末清初の王鐸の行草書を基調としつつ、単体による朴訥とした強さと文字間の響きの効果をねらって作品化した。
188.清夜	単	1995年8月	第12回 読売書法展 入選 インテックス大阪	漢字作品。本紙230㎝×53㎝。五言律詩を行草体により表現した。明末清初の王鐸の行草書を基調としつつ、単体による朴訥とした強さと文字間の響きの効果をねらって作品化した。
189.清夜	単	1995年8月	第12回 読売書法展 入選 インテックス大阪	漢字作品。本紙230㎝×53㎝。五言律詩を行草体により表現した。明末清初の王鐸の行草書を基調としつつ、単体による朴訥とした強さと文字間の響きの効果をねらって作品化した。
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.解説 大字作品の創作について -古典学習を基に-	単	2021年6月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第231号	p8。 仮名書法に関する解説。３尺×８尺の横長の紙面に制作した大字仮名表現。拙作「桃花」（2021）について解説を述べた。
2.解説 大字・中字・調和体の作品制作に向けて	単	2020年6月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第219号	P5。 仮名書法に関する解説。３尺×８尺の横長の紙面に制作した大字仮名表現。拙作「梅花」（2020）について解説を述べた。
3.書写書道教育における「文字文化」を考える	共	2020年3月	全国大学書写書道教育学会 書写書道教育研究 第33巻	全国大学書写書道学会鳥取大会の企画ラウンドテーブル「文字文化」に関する討議の報告書。
4.解説 大字仮名作品の書表現について	単	2019年9月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第210号	p8。 仮名書法に関する解説。３尺×８尺の横長の紙面に制作した大字仮名表現、拙作「初雪」（2019）について解説を述べた。
5.学会ラウンドテーブル 「文字文化」	単	2019年9月	全国大学書写書道教育学会 鳥取大会	司会：平田光彦、書記：草津祐介 書教育における新学習指導要領でのキーワードの一つである「文字文化」をテーマとしたラウンドテーブル。司会者として参加した。参加者には、文字文化に関連する法令や告示、中教審のまとめ、指導要領の記載などを時系列にまとめた補助資料を作成し、配布した。
6.解説 仮名作品の創作	単	2018年8月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第197号	p6。 仮名書法に関する解説。２尺×８尺の横長の紙面に制作した大字仮名表現。拙作「散花」（2018）について解説を述べた。
7.解説 散らし書きによる作品制作	単	2017年9月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美	p6。 仮名書法に関する解説。２尺×８尺の横長の紙面に散らし書きを用いて制作した大字仮名表現。拙作「雪梅」（2017）について解説を

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			第186号	述べた。
8.座談会 書写書道教育の今後	共	2017年1月	日本書芸院 日本書芸院広報誌「書くよろこび」 第11号	p2-p5。 加藤泰弘、長野秀章、宮澤正明、黒田賢一、真神巍堂、高木厚人、横山煌平、中村伸夫、福光幽石、中村史朗、平田光彦。 書教育に関する座談会。出席者として参加した。文部科学省教科調査官、中教審国語部会ワーキンググループ委員、大学教員（筑波大、奈良教育大、滋賀大、岩手大）、および書芸院理事長、副理事長が参加した。
9.解説 特集 散らし書き	単	2016年7月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第172号	p7。 仮名書法に関する解説。散らし書きによる大字仮名作品。拙作「雪と梅」（2016）を取り上げ、３尺×６尺の紙面に対する作品づくりについて述べた。
10.座談会 「吉川蕉仙の書」を語る（二）	共	2015年10月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第163号	p4-p8。 司会：平田光彦。出席者：田中久夫、中村史朗、尾西正成、西村大輔。 書学に関する座談会。司会者として参加した。
11.座談会 「吉川蕉仙の書」を語る（一）	共	2015年9月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第162号	p11-p15。 司会：平田光彦。出席者：田中久夫、中村史朗、尾西正成、西村大輔。 書学に関する座談会。司会者として参加した。
12.学会抄録（研究発表要旨） 右払いやはねから感受される視覚的効果	単	2014年10月	全国大学書写書道教育学会 全国大学書写書道教育学会 第29回（埼玉大会）研究発表要旨集	P25-P27。 「その他2. 学会発表」の要旨。また、研究発表の成果を学術論文「右払いやはねから感受される視覚的効果」（2017）にまとめた。
13.解説 三蹟の書を基にした作品制作 -小野道風-	単	2013年7月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第136号	p9。 和様の書（漢字・仮名書法）に関する解説。三蹟の嚆矢である小野道風について述べたあと、玉泉帖を参照した作品作りの方法について実作例をもとに解説をおこなった。制作の実例は、拙作「はるひ」（2013）。
14.学会抄録（研究発表要旨） 平泉文字資料の筆跡	単	2012年11月	岩手県教育委員会・平泉町教育委員会 平泉出土文字資料検討会中間報告会発表要旨	P9-P12。 2012年の研究発表（その他5）の要旨。平泉遺跡から出土した大量の文字資料のうち、特に難読資料として尺読が困難であった仮名文字資料の研究を行った。仮名文字資料の書的評価を試みるにあたって、同時代の地方出土の仮名文字資料が少ないことから、造形的な比較評価の尺度として、同時代に２度の奥州訪問経験をもつ西行の筆跡を用いた。また共同研究として報告された学術論文11，12では、幅広い読みの可能性を担保したが、本研究では平田の個人的見解として尺読を記した。
15.研究発表 平泉文字資料の筆跡	単	2012年11月	平泉出土文字資料検討会中間報告会 於：一関文化ホール	発表の内容は「その他5. 研究発表要旨」に記した。
16.学会抄録（研究発表要旨） 文字造形の感性評価：左右の払いに関する美的印象	共	2012年10月	全国大学書写書道教育学会 全国大学書写書道教育学会 第27回（京都大会）研究発表要旨集	P70-P72。 平田光彦、阿久津洋巳。 2012年の学会発表の要旨（その他2. 学会発表）。研究発表の成果を学術論文（2012）にまとめた。執筆が平田。
17.解説 かなの原点をみつめる -かなと漢字の接点と調和を考える-	単	2011年6月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第111号	p9。 漢字・仮名書法に関する解説。漢字と仮名の調和をテーマにした作品制作について解説した。漢字と仮名の学書は当然であるが、意識の上でも日常と同様に漢字と仮名を分けて考えない表記や書表現が理想であると考える。拙作「良寛の歌を」（2011）を制作の実例とした。
18.依頼原稿 これからの書	単	2011年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書	p2-p9。 書学、書道史に関する論考。中野越南、小坂奇石、井島勉の再評

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			の美 第108号	価、およびそれぞれの言説を順に辿りながら、各論として、漢字と仮名、直筆と側筆、技術と精神、言葉と書、書の中心と周辺について考察を進めた。特に井島による書の美学には、構造主義のアプローチを援用して解釈を加えた。現在もなお書の造形主義が叫ばれて久しいが、漢字と仮名の学書と両者の融和、精神の内在する技術、言葉としての書の充実が、書の中心であると述べた。
19.研究発表 高等学校芸術教育の今とこれから	単	2010年10月	岩手大学芸術・スポーツ学系研究交流会 於：岩手大学	書教育に関する研究発表。 言葉と表現をテーマに、高校生の言葉への関心、芸術表現とメタファー、文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」を起点とする「言語活動の充実」等について、新学習指導要領を参照しながら述べた。
20.解説 伝小大君筆 香紙切を基にした作品制作に向けて	単	2010年6月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第99号	p6。 仮名書法に関する解説。香紙切を基調とする作品制作について、拙作「梅散らす」（2010）を実例として解説した。集字帖の図版も掲載し、字集めの方法および古典から倣書、創作への手順も明示した。
21.解説 百人一首を読もう（連載100回）	単	2010年4月～2018年7月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第97-196号	各1/2項。 小・中学生向けの月刊連載。全100回の連載で、百人一首を毎月一首ずつ順番に取り合げた。歌意、語句解説、歌や作者にまつわるエピソードなどを紹介した。様々な学齢に合わせるように月ごとに記述の平明さの程度を変えるように配意した。
22.依頼原稿 日本人の美意識	単	2010年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第96号	p2-p9。 書学、書道史に関する論考。国内の芸術表現から「流れ」「間」「装飾」という特質を看取し、日本の美について述べた。平家納経、琳派、クリムト、田中一光への系譜や紅白梅図屏風と植田正治の写真に共通する主題と構成の読み取り等を試みた。関係の記述は、植田氏の孫である増谷寛氏より高評価を頂き、植田正治写真美術館に掲載誌を蔵書して下さる由伺った。
23.依頼原稿 美のゆくえ	単	2008年11月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第80号	p0-p1。 書学に関する論考。芸術の自己目的性に対して、芸術の目的は人と人とを繋ぐところに生まれるという考えを提示した。和辻哲郎の「間柄」の解釈等を話題の契機として吉本隆明や小田実らの言説を巡りながら、芸術と倫理の問題について考察した。
24.教育実践報告論文 書の魅力を広げる取り組み	単	2008年11月	全日本高等学校書道教育研究会 第33回 全日本高等学校書道教育研究会 鹿児島大会研究集録	P136-P145。 書教育に関する実践報告論文。地域・保護者や他教科の教員、生徒・卒業生とともに実践した様々な芸術教育活動を報告した。高等学校芸術科学習指導要領の内容は表現と鑑賞の２領域で構成されるが、一方で表現は自他を結ぶコミュニケーションでもあり、表現を他者へ開示する活動の意義について考察した。
25.依頼原稿 花と見る夢 -西行の足跡を尋ねて-	単	2008年9月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第78号	p0-p1。 書道史に関する論考。西行の人間像を和歌から読み解きつつ足跡を記した。曽丹集巻末書付や小色紙三筆にある書付に関する田中登説、俊成と定家の監督下による書写工房の存在の可能性等、冷泉家時雨亭文庫の資料調査から推察が進められている近年の学術的見解も紹介した。
26.実践発表 書の魅力を広げる取組	単	2008年5月	京都府高等学校書道教育研究会 春季研究会 於：京都府立北嵯峨高等学校	京都府高等学校書道教育研究会での口頭発表。発表内容は、2008年の全国高等学校書道教育研究会の集録（その他．教育実践報告論文）にまとめられた。
27.解説 漢字の成り立ち（連載36回）	単	2007年4月～2010年3月	日本書学研究会 月刊書道専門誌 書の美 第61-96号	各1/2項。 書道史に関する解説。小・中学生向けの月刊連載。漢字の成り立ちについて、象形と会意を中心に白川静の解釈を紹介した。意味の関連で興味を促せるように、体系的な漢字の選択を試みた。３年間で107文字を紹介した。
28.教育実践報告論文 書と音楽の融合 -音楽選択生徒との共同作品制作-	単	2004年10月	全日本高等学校書道教育研究会 第29回 全日本高等学校書道教育研究	p49-p58。 書教育に関する実践報告論文。2004年の学会発表（その他2．学会発表）に付随する。書道と音楽の合科教育実践で、グループ・ワークによりマルチメディア・アート作品を制作する単元。中間発表会や

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			会　京都大会研究集録	鑑賞会、インターネットでの情報収集や作品公開、ミーティング（言語活動）やweb制作、ポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価など、その後の様々な教育上の動向を先取したオープンエンドな課題解決学習であった。アクティブ・ラーニングの先駆的実践。
29.実践発表・公開授業 書と音楽の融合 プレ公開授業	単	2003年10月	京都府高等学校書道教育研究会 秋季研究会 於：京都市立日吉ヶ丘高等学校	2004年の全国研究大会での発表（その他2. 学会発表）に向けて、京都府の高等学校書道教育研究会でプレ研究発表会が行われた。
30.解説 臨書学習 漢字（連載12回）	単	2003年4月～2004年3月	一東書道会 書道研究　一東 第313-324号	各１項。 漢字書法、書道史に関する解説。日中の漢字古典の歴史的背景と造形・技法分析を述べた。１年間の連載で「蘭亭序」「薦季直表」など12の古典を紹介した。
31.依頼原稿 発表の場の広がりを求めて -地域活動からネットを利用しての情報発信まで-	単	2002年12月	書の美研究会 季刊　書の美 第72号 ＊月刊書道専門誌書の美とは別の専門誌	P38-P40。 書教育に関する論考。井島勉や森田子龍らによる『墨美』の流れを汲む『季刊 書の美』の特集号「日本の書教育はいま」に寄せた論考。当時、校外展によって学びを地域に開く活動は少なく、特にホームページによって高等学校の書教育の内容を公開発信していたのはごく希少であり、先駆的な実践の紹介であった。
32.実践発表 自分の名前をテーマに作品を作ろう -大字と漢字仮名交じりの書を用いて-	単	1998年11月	京都府高等学校書道教育研究会 秋季研究会 於：京都府立綾部高等学校	書教育に関する実践発表。自身の名前の由来を聞くなどして、名前からの一文字をテーマにした詩や文章を作成する。その一字の大字書と作成した詩文を全紙1/2サイズの作品として制作する単元（書道Ⅰ）を発表した。
６．研究費の取得状況				
1.岩手大学若手教員論文投稿支援経費（学長裁量経費［特別枠］）	単	2013年度	国立大学法人岩手大学	学内応募申請し採択。課題名「文字の下部における縦画の美的強調」。
2.科学研究費補助金 基盤研究（C）	共	2011年～2013年	文部科学省および日本学術振興会	研究協力者。研究代表者は、阿久津洋巳（岩手大学教育学部教授）。研究課題名「読みやすさを決める文字の空間配置」（課題番号23611001）。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年5月～2024年11月	ともしびの賞　選考委員（兵庫県阪神南県民センター）
2.2023年4月～現在	NPO法人 兵庫書写書道教育協会　評議員
3.2022年8月～2023年8月	兵庫県立教育研修所　（高）芸術科（書道）教育講座　講師
4.2017年5月～現在	意匠学会
5.2014年11月～2018年3月	全日本書写書道教育研究会　副会長
6.2013年8月～2016年8月	岩手県総合教育センター 授業力向上研修（教員免許更新講習）　講師
7.2013年6月～現在	日本官能評価学会
8.2013年5月～現在	日本デザイン学会　（査読担当［年度は非公表］）
9.2011年1月～2013年1月	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課 平泉遺跡群調査事務所主催 平泉遺跡群出土文字資料検討委員会　助言者
10.2009年4月～現在	全国大学書道学会（2016年度 岩手大会にて会場校庶務を担当）
11.2009年4月～2017年3月	岩手県書写書道教育研究協議会　常任理事
12.2009年4月～2017年3月	岩手大学語文学会（2012年から会計担当）
13.2009年4月～2017年3月	日本教育大学協会全国書道部門（2016年度 岩手大会にて会場校庶務を担当）
14.2008年11月～現在	書学書道史学会
15.2008年9月～現在	全国大学書写書道教育学会（2017年理事、2019年～理事、2020年～本部委員［企画広報局・会報編集］、2016年度 岩手大会にて会場校庶務を担当）
16.2007年4月～2009年3月	京都府教育美術展覧会　理事（2008年度 事務局次長、書道部門長）
17.2005年4月～現在	日本書学研究会（2007年から総務理事）
18.2002年1月	全日本高等学校書道コンクール　審査員
19.2000年4月～現在	読売書法会（2009年～理事、2013年 審査員）
20.2000年，2005～2011年，2015年～現在	日中国際文化交流書道展　審査員
21.1999年4月～現在	公益社団法人日本書芸院（2015年～評議員、2012年 手書き文字ばんざい東北大会実行委員、2015～2018年

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
	全日本高校大学生書道展第一次審査員）
22.1996年4月～2009年3月	京都府立高等学校書道教育研究会（1998年～2003年；2007年～2008年度 委員）
23.1996年4月～2009年3月	京都府高等学校書道教育研究会（1998年～2003年度；2007年～2008年度 委員）
24.1996年4月～2009年3月	全国高等学校書道教育研究会（1999年～2004年度 京都大会準備委員、2002年度 同大会編集長、2003年～2004年度 同編集副部長）
25.1996年4月～2009年3月	京都府高等学校芸術文化連盟（2005~2006年度 副委員長、全国高等学校総合文化祭京都大会書道部門運営委員、2000年度 役員、近畿高等学校総合文化祭企画準備委員）